履 修 案 内

2020 年度入学者用

杏林大学外国語学部
Faculty of Foreign Studies
英語学科
中国語学科
観光交流文化学科

履修案内について

この『履修案内』は、入学時に、一人一冊配布されます。
常時、この冊子を身近なところに大切に保管し、十分に活用してください。

◆履修案内は、杏林大学外国語学部における履修について、杏林大学学則、本学部の諸規程、および別冊『ハンドブック』記載の事項はもとより、それらに明示されていない細則や事項を解説したものです。

◆このガイドブックに記載されている内容は、いずれも、杏林大学外国語学部に在籍する学生にとって重要なものばかりですので、学生諸君は、オリエンテーション等の際にはこの冊子を必ず持参してその内容をしっかりと理解するよう努めてください。

◆以下の記載事項については、オリエンテーション、各種のガイダンス、および掲示等を通じて、追加・変更・訂正がなされることもあるので、注意してください。

＜２０２０年度　外国語学部学年暦＞

[春学期]

２０２０年３月３０日(月) ～	４月　３日(金)	オリエンテーション
４月　４日(土)		授業開始
４月　５日(日)		入学式
４月　４日(土) ～	４月１１日(土)	履修登録期間
４月２０日(月) ～	５月　６日(水)	履修中止制度手続き期間
７月２２日(水)		授業終了
７月２５日(土) ～	８月　４日(火)	定期試験期間
８月　５日(水) ～	９月１４日(月)	夏季休暇
８月１８日(火) ～	８月２２日(土)	追･再試験期間
９月１４日(月)		卒業式(９月)

◎春学期　休日授業日

５月６日(水) (水曜授業実施)

◎春学期補講日 (やむを得ず授業が休講となった場合の振替日。時限や教室は別途掲示)

５月３０日(土)午後	６月２０日(土)午後	７月４日(土)午後	７月１１日(土)終日

[秋学期]

２０２０年９月１５日(火)		オリエンテーション
９月１６日(水)		秋学期授業開始
９月１６日(水) ～	９月２３日(水)	履修登録
１０月　９日(金) ～	１０月１２日(月)	学園祭(準備・後片付けを含む／休講)
１０月　６日(火) ～	１０月１６日(金)	履修中止制度手続き期間
１１月１１日(水)		創立記念日
１２月２８日(月) ～	１月　３日(日)	冬季休暇
２０２１年１月　４日(月)		授業再開
１月１４日(木)		授業終了
１月１８日(月) ～	１月２７日(水)	定期試験期間
２月１７日(水) ～	２月２４日(水)	追･再試験期間

※日程については、変更する場合があります。

◎秋学期　休日授業日

９月 21 日(月) (月曜授業実施)	９月 22 日(火) (火曜授業実施)

◎秋学期　振替授業日

１月 13 日 (水) (月曜授業実施)	１月 14 日 (木) (月曜授業実施)

◎秋学期補講日 (やむを得ず授業が休講となった場合の振替日。時限や教室は別途掲示)

１０月３１日(土)午後	１１月２８日(土)午後	１２月２４(木)終日	１月１５日(金)終日

＜２０２０年度オフィスアワー一覧＞

教員氏名	曜日	実施時間帯	教員氏名	曜日	実施時間帯
赤井　孝雄	火・水	12：10～13：00	神保　真一	水	12：10～13：00
赤嶺　恵理	火	12：10～13：00	関　美和	水	12：10～13：00
荒川　みどり	月	12：10～13：00	詹　満江	月	12：10～13：00
嵐　洋子	火	12：10～13：00	高木　眞佐子	木	12：10～13：00
イアン ランバード	水	12：10～13：00	田中　洋	木	12：10～13：00
池田　尚広	金	12：10～13：00	千野　万里子	金	12：10～13：00
稲垣　大輔	火・水	12：10～13：00	張　弘	月	12：10～13：00
岩本　和良	火	12：10～13：00	鄭　英淑	火	12：10～13：00
宇佐美　貴浩	木	12：10～13：00	遠山　菊夫	木	12：10～13：00
海谷　千波	火	12：10～13：00	西山　桂子	火	12：10～13：00
北村　一真	火	12：10～13：00	野口　洋平	木	12：10～13：00
倉林　秀男	木	12：10～13：00	長谷川　弘子	木	12：10～13：00
小林　輝美	火・金	12：10～13：00	藤田　由香利	金	12：10～13：00
小堀　貴亮	水・金	12：10～13：00	古本　泰之	木	12：10～13：00
齋藤　智志	火	12：10～13：00	真野　靖久	木	12：10～13：00
坂本　ロビン	水	12：10～13：00	八木橋　宏勇	金	12：10～13：00
志村　良浩	木	12：10～13：00	安江　枝里子	水	12：10～13：00

※曜日、時間等の変更が生じた場合は、掲示により連絡します。

《非常勤講師のオフィスアワーについて》
非常勤講師については、原則として授業終了時に教室や非常勤講師控室（D棟１階）にて質問を受け付けています。または、随時、電子メールで質問を受け付ける対応を行っています（但し、その教員がメールアドレスを公開している場合に限ります）。

目　次

○はじめに
1　学生の皆さんへ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
2　建学の精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
（1）理念・目的
（2）教育目標
3　学部（学科）の理念・教育研究上の目的、教育目標・・・・＊
（1）学位授与の方針(ディプロマポリシー)
（2）教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

Ⅰ　学位授与、カリキュラムの方針・・・・・・・・・・・・・・・＊
1　外国語学部全体の方針
学位授与の方針(ディプロマポリシー)
教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)
2　英語学科の方針
学位授与の方針(ディプロマポリシー)
教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)
3　中国語学科の方針
学位授与の方針(ディプロマポリシー)
教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)
4　観光交流文化学科の方針
学位授与の方針(ディプロマポリシー)
教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

注意事項について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
（1）事務取扱時間について
（2）教務課からの連絡について
（3）オリエンテーションについて
（4）問い合わせについて
（5）教員との連絡について
（6）その他

Ⅱ　授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
1　学期制
2　授業期間
3　授業時間
4　授業の出席
5　授業の欠席
6　休講
7　補講

８　交通機関の不通による授業の取り扱い
９　台風・降雪時の授業の取り扱い

Ⅲ　単位と科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
１　単位制度
２　単位の計算方法
３　配当学期次
４　授業科目
５　科目区分
６　科目ナンバリング

Ⅳ　履修
１　主専攻プログラム・副専攻プログラム・・・・・・・・・・・＊
（１）主専攻プログラム
（２）副専攻プログラム
２　履修登録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
（１）履修登録の制度
（２）履修単位数の上限
（３）クラスの指定について
（４）再履修について
（５）ゼミナールの履修について
（６）卒業論文・課題指導の履修について
３　履修登録の手続き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
（１）履修方法
（２）履修登録の流れ
４　履修中止制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊

Ⅴ　単位認定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
１　単位認定制度について
（１）各制度の内容
（２）外国の教育機関への留学について
（３）外国の教育機関への留学（海外研修）の履修について
（４）大学コンソーシアム八王子加盟大学間単位互換について
（５）インターンシップの履修について
（６）検定試験合格・資格取得による単位認定について
（７）アドバンストプレイスメントに関する単位認定について

Ⅵ　試験
　1　試験の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　（1）平常点・平常試験
　　（2）定期試験
　　（3）追試験
　　（4）再試験
　2　試験に関する一般的な注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　（1）受験資格についての注意事項
　　（2）試験実施にあたっての注意事項
　　（3）受験にあたっての注意事項
　3　レポート提出に関する注意事項・・・・・・・・・・・・・・・＊

Ⅶ　成績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　1　成績評価・表記
　2　GPA 制度について
　3　成績発表
　4　成績評価の問い合わせについて
　5　学期末日程について

Ⅷ　卒業と進級・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　1　卒業の要件
　　（1）学科・コース別の必修科目及び選択必修科目の科目数並びに単位数
　　（2）転・編入生の卒業要件について
　2　進級の条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　（1）通常の進級条件
　　（2）留学期（留セメスター）
　　（3）進級できなかった場合の科目履修

Ⅸ　授業科目
　英語学科
　　① 外国語科目Ａ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　② 外国語科目Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　③ 基盤教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　④ 教養科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　⑤ 専門科目(英語ビジネスコミュニケーションコース)・・・・＊
　　⑥ 専門科目(英語教育コース)・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
　　⑦ 関連科目(英語ビジネスコミュニケーションコース・英語教育コース共通)・＊

中国語学科
① 外国語科目Ａ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
② 外国語科目Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
③ 基盤教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
④ 教養科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
⑤ 専門科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
⑥ 関連科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
観光交流文化学科
① 外国語科目Ａ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
② 外国語科目Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
③ 基盤教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
④ 教養科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
⑤ 専門科目Ａ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
⑥ 専門科目Ｂ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
⑦ 関連科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊

Ⅹ 副専攻プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊

Ⅺ 規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＊
○杏林大学外国語学部履修規程
○杏林大学外国語学部転学科規程

Ⅻ 教職課程、地（知）の拠点整備事業、APプログラム（高大接続）について・＊
１ 教職課程（英語学科英語教育コース選択者のみ）
２ 地（知）の拠点整備事業(大学ＣＯＣ事業)について
３ ＡＰプログラム(日英中トライリンガル育成のための高大接続)について

UNIVERSAL PASSPORT 利用の手引き・・・・・・・・・・・・・・・・・＊

○　はじめに

1　学生の皆さんへ

外国語学部長　坂本　ロビン

今日から杏林大学・井の頭キャンパスの生活が始まります。大学生活では多くの教職員や先輩、後輩、同級生と素晴らしい未来をつくる様々なチャンスが生まれると思います。あらゆることにチャレンジしてみてください。そうすれば自分の夢が見えてくるでしょう。しかし、その夢は美しい夢でなければなりません。夢を持つだけではなくその美しい夢を信じることが大切です。この冊子を井の頭キャンパス最初の一年の履修計画を立てるのに十分活用して頂き、皆さんの素晴らしい未来、そして美しい夢を実現するための第一歩として頂ければ幸いです。

2　建学の精神

杏林大学の建学の精神は「眞・善・美の探究」です。
「眞・善・美の探究」を通じて、優れた人格を持ち、人のために尽くすことの出来る国際的な人材を育成することが、本学の教育理念です。

3　学部（学科）の理念・教育研究上の目的、教育目標

(1)　理念・目的

外国語学部の理念・目的は、外国語の習得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な外国語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することです。

① 英語学科は、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な英語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的としています。
② 中国語学科は、社会のニーズに対応できる実践的な中国語運用能力を開発し、高度な知見と技能の修得により、日中間の交流を担う、中国語の高度なコミュニケーション能力を具備した人材を養成することを目的としています。
③ 観光交流文化学科は、観光産業の現場における有益な人材を輩出するため、充分な外国語運用

能力に基づいたコミュニケーション力を修得した上で、正しい異文化理解、さらには産業の現状把握を通じて「ホスピタリティ」を学習し、実践的に応用できる人材を養成することを目的としています。

(2) 教育目標

正しい異文化理解に基づく 21 世紀型世界市民の育成を目指し、実践的かつ高度な外国語運用能力、問題解決能力、良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力や社会人力を身につけた人材を養成する。

Ⅰ 学位授与、カリキュラムの方針

1．外国語学部全体の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。

（1）卓抜した外国語運用能力
・母語だけではなく２つの外国語（特に英語・中国語）を実践的かつ高度に運用できる。
（2）コミュニケーション能力
・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。
（3）問題解決能力
・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。
（4）自己表現力・情報発信力
・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。

（5）異文化理解とグローバル人材力
・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。
（6）高い倫理観と社会的責任遂行能力
・相互に連関するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。
（7）専門的な知識・技術・技能と活用力
・実社会の中で必要な基礎専門能力を修得し、それを発展的に活用することができる。

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）

外国語学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の 4 つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。
教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

（1）教育内容
（1-1）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・外国語（英語・中国語）の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム（Practical English Program、Chinese for International Communication）を実施する。
・実践的な英語運用能力を高めるため、「実用英語Ⅰ～Ⅳ」「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
・高度な英語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別英語演習Ⅰ～Ⅶ」、専門科目として「Communication Strategies」などを配置する。
（1-2）コミュニケーション能力を修得するために
・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。

・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。
（1-3）問題解決能力を修得するために
・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。
（1-4）自己表現力・情報発信力を修得するために
・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
（1-5）異文化理解とグローバル人材力を修得するために
・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。
・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジアン・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。
（1-6）社会的責任遂行能力を修得するために
・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。
・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。
（1-7）専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために
・各学科、コースに求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。
・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4 年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。

（2）教育方法
（2-1）グローバル社会での適応能力を修得するために
・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。

（2-2）高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために
・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。
（2-3）社会的責任遂行能力の修得のために
・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。
（2-4）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL （Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

（3）成果の測定
（3-1）各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA（Grade Point Average）で評価する。
（3-2）外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。
（3-3）入学時基礎学力測定、大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

2．英語学科の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部英語学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（文学）の学位を授与する。

（1）卓抜した外国語運用能力
・母語だけではなく 2 つの外国語（特に英語・中国語）を実践的かつ高度に運用できる。

（2）コミュニケーション能力
・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。

（3）問題解決能力
・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。

（4）自己表現力・情報発信力
・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。

（5）異文化理解とグローバル人材力
・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

（6）高い倫理観と社会的責任遂行能力
・相互に連関するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。

（7）専門的な知識・技術・技能と活用力
＜英語ビジネスコミュニケーションコース＞
・グローバルビジネスで求められる基礎知識及びコミュニケーション能力を修得し、それを活用することができる。
＜英語教育コース＞
・英語教育に必要な英語という言語の基礎知識及び教科指導能力を修得し、それを活用することができる。

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）

外国語学部英語学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の 4 つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。
教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

（1）教育内容
（1-1）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・外国語（英語・中国語）の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム（Practical English Program、Chinese for International Communication）を実施する。

・実践的な英語運用能力を高めるため、「実用英語Ⅰ～Ⅳ」「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
・高度な英語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別英語演習Ⅰ～Ⅶ」、専門科目として「発展英作文」などを配置する。
（1-2）コミュニケーション能力を修得するために
・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。
・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。
（1-3）問題解決能力を修得するために
・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。
（1-4）自己表現力・情報発信力を修得するために
・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
（1-5）異文化理解とグローバル人材力を修得するために
・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。
・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジアン・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。
（1-6）社会的責任遂行能力を修得するために
・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。
・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。
（1-7）専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために
・各学科、コースに求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき以下のコースを設置し、必修科目と選択科目を区別し、学年･学期別の科目配置を行う。

＜英語ビジネスコミュニケーションコース＞
グローバルビジネスの場で求められる実践的英語力と、ビジネスに必要な基礎知識及び能力を修得するために、「ビジネスイングリッシュ」「グローバルビジネス論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置する。
＜英語教育コース＞
教育・指導に必要な高度の英語力と英語教育スキルを修得するために、「英語音声学」「英語教育論」などの科目を配置する。
・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4 年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。

（2）教育方法
（2-1）グローバル社会での適応能力を修得するために
・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。
（2-2）高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために
・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。
（2-3）社会的責任遂行能力の修得のために
・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。
（2-4）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・英語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL （Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

（3）成果の測定
（3-1）各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA（Grade Point Average）で評価する。
（3-2）外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。
（3-3）入学時基礎学力測定、大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

⑶ 中国語学科の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部中国語学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（中国語コミュニケーション学）の学位を授与する。

（1）卓抜した外国語運用能力
・母語だけではなく 2 つの外国語（特に中国語・英語）を実践的かつ高度に運用できる。

（2）コミュニケーション能力
・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。

（3）問題解決能力
・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。

（4）自己表現力・情報発信力
・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。

（5）異文化理解とグローバル人材力
・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

（6）高い倫理観と社会的責任遂行能力
・相互に連関するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。

（7）専門的な知識・技術・技能と活用力
・ビジネス一般あるいは通訳・翻訳などの語学専門職で通用するのに十分な中国語コミュニケーション能力を修得し、それを活用することができる。

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）

外国語学部中国語学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の 4 つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。
教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

（1）教育内容
（1-1）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・外国語（中国語・英語）の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム（Chinese for International Communication、Practical English Program）を実施する。
・実践的な中国語運用能力を高めるため、「中国語Ⅰ～Ⅷ」を配置する。
・高度な中国語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別中国語演習Ⅰ～Ⅴ」、専門科目として「インテンシブ中国語Ⅰ～Ⅷ」「中国語発音実習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
（1-2）コミュニケーション能力を修得するために
・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。
・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。
（1-3）問題解決能力を修得するために
・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。
（1-4）自己表現力・情報発信力を修得するために
・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
（1-5）異文化理解とグローバル人材力を修得するために
・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。

・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジアン・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。
（1-6）社会的責任遂行能力を修得するために
・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。
・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。
（1-7）専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために
・各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年･学期別の科目配置を行う。
・グローバルビジネスの場で求められる実践的中国語力と、ビジネスに必要な基礎知識及び能力を修得するために、「ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ」「中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置する。
・通訳・翻訳などの語学専門職で求められる基礎知識及び能力を修得するために、「中国語通訳法Ⅰ・Ⅱ」「中国語翻訳法Ⅰ・Ⅱ」「日中通訳翻訳演習Ⅰ～Ⅳ」「中国語翻訳ワークショップ」などの科目を配置する。
・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4 年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。

（2）教育方法
（2-1）グローバル社会での適応能力を修得するために
・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。
（2-2）高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために
・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。
（2-3）社会的責任遂行能力の修得のために
・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。
（2-4）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・中国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL （Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

（3）成果の測定
（3-1）各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA（Grade Point Average）で評価する。
（3-2）外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。
（3-3）入学時基礎学力測定、大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

(4)観光交流文化学科の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部観光交流文化学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（観光交流文化学）の学位を授与する。

（1）卓抜した外国語運用能力
・母語だけではなく 2 つの外国語（特に英語・中国語）を実践的かつ高度に運用できる。

（2）コミュニケーション能力
・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。

（3）問題解決能力
・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。

（4）自己表現力・情報発信力
・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。

（5）異文化理解とグローバル人材力
・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。

（6）高い倫理観と社会的責任遂行能力
・相互に連関するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。
（7）専門的な知識・技術・技能と活用力
・観光・ホスピタリティに関する基礎知識に加え、ホスピタリティをキーワードとするビジネス及び地域・国際社会において観光による人的交流を創出させる上で求められる能力を修得し、それを活用することができる。

教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）

外国語学部観光交流文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の 4 つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。
教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。

（1）教育内容
（1-1）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・外国語（英語・中国語）の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム（Practical English Program、Chinese for International Communication）を実施する。
・実践的な英語運用能力を高めるため、「実用英語Ⅰ～Ⅳ」「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。
・高度な語学運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別英語演習Ⅰ～Ⅶ」「目的別中国語演習Ⅰ～Ⅴ」、専門科目として「観光英語Ⅰ～Ⅳ」「観光中国語Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
（1-2）コミュニケーション能力を修得するために
・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。
・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。

（1-3）問題解決能力を修得するために
・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。
・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。
（1-4）自己表現力・情報発信力を修得するために
・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。
・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」（英語発信・中国語発信）などを配置する。
（1-5）異文化理解とグローバル人材力を修得するために
・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。
・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジアン・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。
（1-6）社会的責任遂行能力を修得するために
・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。
・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。
（1-7）専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために
・各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年･学期別の科目配置を行う。
・観光・ホスピタリティに関する知識及び能力を修得するために、「観光学入門」「ホスピタリティ入門」「サービス産業論」を1年次科目として配置した上で、「国際観光論」「交流文化論」「旅行産業論」などの専門科目を2年次以降に配置する。
・観光産業において求められる能力である、他者との協調・協働による問題解決能力を修得するために、「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置する。
・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。

（2）教育方法
（2-1）グローバル社会での適応能力を修得するために
・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。
（2-2）高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために
・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。
（2-3）社会的責任遂行能力の修得のために
・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。
（2-4）卓抜した外国語運用能力を修得するために
・外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL（Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。

（3）成果の測定
（3-1）各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA（Grade Point Average）で評価する。
（3-2）外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。
（3-3）入学時基礎学力測定、大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。

5　注意事項について

(1)　事務取扱時間について

教務課の事務取扱時間は下記のとおりです。原則として時間外の取り扱いはできません。

平日　9:00～17:15	土曜　9:00～13:00

※日曜、休日は休業です

(2)　教務課からの連絡について

大学から学生への連絡は、掲示･UNIVERSAL PASSPORT によって行います。掲示を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

(3)　オリエンテーションについて

学期のはじめに、科目の選択・登録・カリキュラムの内容等、学習活動の手引きとなる各種ガイダンスが行われますので、必ず出席するようにしてください。

(4) 問い合わせについて

授業についての情報や履修に関する相談は、電話では受付できません。必要のあるときは窓口にて質問してください。

(5) 教員との連絡について

① アカデミックアドバイザー・オフィスアワー

杏林大学専任の教員は学内に研究室があります。また、各学生には専任教員の中からアカデミックアドバイザーが１名定められています。

アカデミックアドバイザーは、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援（修学支援、学生生活支援、進路支援等）を行っており、その指導を受ける機会としてオフィスアワーが設けられています。授業科目の履修上の相談をはじめ、学習上の問題点や疑問、学生生活に関する相談には、このオフィスアワーを積極的に活用し、学生生活の充実を図ってください。また、オフィスアワーの曜日と時間は「オフィスアワー一覧」で確認してください。

② 兼任教員（非常勤教員）との連絡方法

非常勤講師については、原則として授業終了時に教室や非常勤講師控室(D棟１階)にて質問を受け付けています。または、随時、電子メールで質問を受け付ける対応を行っています(但し、その教員がメールアドレスを公開している場合に限ります)。

(6) その他

下記については、別冊「HAND BOOK」の該当箇所を参照してください。

① 学籍番号、学生証

② キャンパス内の諸施設の利用

Ⅱ　授業

1　学期制

本学部では学期制（セメスター制度）を採用しています。この学期制とは１年間を単位とした通年授業による学年制とは異なり、半年を単位とする学期（セメスター）ごとに授業が完結するものであり、春学期（春セメスター）と秋学期（秋セメスター）の２つの学期に分かれます。

成績評価は、学期ごとの学修に対して各学期末に与えられることになります。この学期とは、高校までの１学期、２学期というものとは違い、それぞれが独立・完結したものであり、入学時は第１学期、それから第２～８学期へと必要条件を満たせば進級してゆくことになります。つまり学期制とは、卒業要件を満たしながら学期（セメスター）を積み重ねることによって卒業するというシステムのことです。

2　授業期間

授業の開始日・終了日、試験期間などについては、「外国語学部学年暦」で確認してください。

3　授業時間

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
9：00～10：30	10：40～12：10	13：00～14：30	14：40～16：10	16：20～17：50	18：00～19：30

※注意　このほかに、集中的に授業を行う「集中講義科目」があります。
この場合の授業日時、教室については掲示で別途連絡します
（授業時間割表では「集中講義」として掲載してあります）。

4　授業の出席

単位を修得するためには、原則として実授業回数の３分の２以上の出席が必要です。

5　授業の欠席

「学校感染症に罹患」「７日以上におよぶ病気･ケガ」「忌引き」「交通機関の遅延」などでやむを得ず授業を欠席した場合は､その事由を明らかにする証明書を持参のうえ､欠席届を提出してください。これらに該当しない事由で欠席した場合は、担当教員に直接相談してください。

なお､欠席届を提出した場合に､どの程度考慮されるかについては､担当教員により異なるので､直接教員に確認して下さい。

欠席届を提出する際は、以下の書類を添付してください。

欠席理由	添付する書類
学校感染症に罹患した場合	感染症罹患証明書、医師の診断書
病気、けがで登校不能な場合	医師の診断書
忌引、近親者が重病の場合	会葬礼状（コピー可）または保証人の連署押印した書類
電車・バスの遅延	遅延証明書
事故及び災害	事故・災害を証明する公的機関が発行した書類

注）１ 感染症罹患証明書は大学指定の書式、又は医療機関が作成する書式のどちらでも良い。
大学指定の書式は以下の URL からダウンロードすること。
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/health/kansen/rikan.pdf
２「忌引、近親者が重病の場合」の対象となるのは、２親等以内の親族とする。
３　自家用車・バイクの通学は、すべて本人の責任において行うものとし、
事故・渋滞等の理由であっても救済の対象とはならない。
４　遅延による申請の場合は、当日または翌日に受け付ける。
５　授業への遅刻や欠席に関する教員への電話の取り次ぎは行わない。
５６科目により、その他の取り決めがある場合は、その指示を優先する。

6　休講

やむを得ず授業が休講となることがあります。その場合、原則として授業の休講は UNIVERSAL PASSPORT で告知しますので、始業前に必ず確認してください。
なお、休講の連絡がなく、授業開始時刻から３０分以上経過しても授業科目担当教員が出講しない場合は、教務課で指示を受けてください。

7　補講

補講は春学期と秋学期にそれぞれ設けられている補講日に原則として行いますが、このほかにも特別に行う場合もあります。いずれの場合も掲示をしますので、日時や教室を確かめて受講してください。

8　交通機関の不通による授業の取り扱い

原則として、小田急バスが運行している場合は授業を行います。従って、ＪＲ（中央線、総武線）や私鉄（京王線、京王井の頭線）等の一部が天災、事故又はストライキ等により不通の場合であっても他の路線を利用してください。

①午前６時までに小田急バスの運行停止が解除された場合
　平常どおりに授業を行います。
②午前９時までに小田急バスの運行停止が解除された場合
　当日の午後の授業を行います。
③小田急バスの運行停止の解除が午前９時を過ぎた場合
　当日は休講とします。

上記にかかわらず授業を行う場合には、大学公式サイトへの情報掲載、教務課から掲示または UNIVERSAL PASSPORT で連絡します。

９　台風・降雪時の授業の取り扱い

台風の接近・降雪が予想される場合、杏林大学公式サイトのトップ画面「最新情報」に「休講情報」「緊急連絡」を掲載しますので確認してください。大学公式サイトに情報が掲載されない場合は授業を実施します。

Ⅱ　単位と科目

1　単位制度

大学では単位制が採用されています。単位制とは、各授業科目に一定の基準によって定められた「単位」があり、各授業科目を所定の方法に従って履修し、試験などで合格の評価を得た者に、その「単位」が与えられる制度のことです。

2　単位の計算方法

「１単位」の授業科目とは、杏林大学学則（第２５条）及び大学設置基準（第６章第２１条第２項）において、「４５時間の学修を必要とする内容をもって構成し、授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮する」と定められています。これは、大学における授業が、単に出席していればよいというものではなく、積極的に参加すべきものであることを明記したものです。

各授業科目の単位は、学則に則って定められています。その所定単位数については、この履修要綱の「授業科目」を参照してください。

3　配当学期次

授業科目にはそれぞれ配当学期次が定められています。これは、各授業科目の性質と内容を十分に理解して、それぞれの授業科目を段階的・系統的に学習するために履修できる学期次の配当を定めているものです。なお、この履修案内には、配当学期次のうち履修可能な最初の学期次が記されています。

4　授業科目

本学部の授業科目は、必修科目、選択科目、選択必修科目、自由科目の４つに分かれています。

必 修 科 目	卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目
選 択 科 目	必修科目以外の科目
選択必修科目	選択科目のうち特定の科目の中から所定の単位を修得しなければならない科目
自 由 科 目	進級・卒業の単位に含まれない科目

必修科目については履修すべき学期次が、選択科目（選択必修科目を含む）については履修できる最初の学期次が、それぞれ指定されています。したがって、選択科目については指定された学期次以上に在籍している学生であれば履修できます。

5　科目区分

本学部の科目区分は、外国語科目、基盤教育科目、教養科目および専門科目に分かれています。

外国語科目	外国語科目はA、Bに分かれ、Aは必修科目、Bは選択科目です。外国語科目Aは、英語科目、中国語科目、日本語科目からなり、日本語科目は日本語を母語としない学生（以下「外国人留学生」という）のための必修科目です。外国語科目Bは、目的別英語演習、目的別中国語演習、フランス語、ドイツ語、韓国語などの選択科目で構成されています。
基盤教育科目	基盤教育科目は、外国語学部の共通科目で、大部分が１・２年次に履修する必修科目です。「グローバル」「ローカル」「ホスピタリティ」「キャリア」の４つのキーワードで構成され、外国語学部の教育目標に適った人材となる基盤を築くための科目です。
教養科目	教養科目は、すべて選択科目で、自分の興味・関心に合わせて４年間にわたって履修していく科目です。「ことばと文化」、「グローバル社会と地域」、「人間と健康」、「日本語教育」の４つの領域で構成されています。
専門科目	専門科目は、各学科別に履修していく科目です。英語学科の専門科目は、英語ビジネスコミュニケーションコース、英語教育コース別の専門科目で構成されています。中国語学科は専門性の高い科目群、観光交流文化学科はAとBの２つの分野で構成されています。

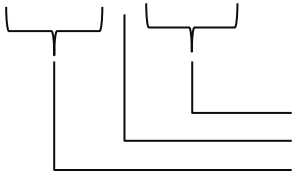
6　科目ナンバリング

科目ナンバリングとは、全ての科目にアルファベットと数字を用いたナンバーを付け、授業科目の学修段階や順序等の体系性を明示し、学生がレベルや専門を勘案して授業科目を履修できることを目的とした制度です。
外国語学部では英字コード３桁と数字コード４桁を組み合わせて、体系的に区分毎の科目の割り振りをしています（シラバスまたは「Ⅸ　授業科目」を参照）。

英字ｺｰﾄﾞ	英字名称	内　容
CHN	CHINESE	中国語／中国語系専門科目／中国語系専門関連科目
ENG	ENGLISH	英語／英語系専門科目／英語系専門関連科目
FRN	FRENCH	フランス語
GER	GERMAN	ドイツ語
JPN	JAPANESE	日本語／日本語系専門科目／日本語系専門関連科目
KOR	KOREAN	韓国語
SPN	SPANISH	スペイン語
GEH	GENERAL HUMANITIES	人文･社会科学系科目
GEN	GENERAL (REQUIREMENTS)	必修専門科目／必修専門関連科目　※学科共通科目
GES	GENERAL MATH AND SCIENCE	理数系科目
TRM	TOURISM	観光系科目

数字ｺｰﾄﾞ		内　容
1***		上１桁「1」　⇒　難易度・初級の科目を表す
2***		上１桁「2」　⇒　難易度・中級の科目を表す
3***		上１桁「3」　⇒　難易度・上級の科目を表す
*000		下３桁　　⇒　科目の個別番号を表す

例）ＣＨＮ１００１



個別番号を表します。
難易度（初級、中級、上級）を表します。
種類（上記参照）を表します。

Ⅳ　履修

1　主専攻プログラム・副専攻プログラム

(1)　主専攻プログラム

学士号の取得を目的として、所属する学科の教育課程に沿って学修する内容を主専攻プログラムといいます。入学した学科を卒業するために履修するカリキュラムは、「Ⅶ-2　授業科目」の各学科の科目表・カリキュラムマップを見てください。学科・コース別の卒業に必要な必修科目・選択必修科目の科目数・単位数は「Ⅶ-1　卒業と進級」「1　卒業の要件」を見てください。

(2)　副専攻プログラム

外国語学部で学べる科目は文化、社会、教育など多岐にわたっています。科目の組み合わせによって、学科の学びを深めたり、興味関心を広げたり、次世代のグローバル人材としての“プラス・ワン”を身につけることができます。その選択の目安となるように６つの副専攻プログラムを用意しています。

卒業までの４年間に、各副専攻の設けた条件にしたがって履修すると、副専攻の修了証を受け取ることができますので、就職活動等で自分をPRすることもできます。

以下の６つの副専攻は、どの学科に所属していても選択することができます。副専攻の履修は義務ではありませんが、大学での学びを豊かに、また幅の広いものとし、将来の可能性を広げるために、このプログラムを有効に活用してください。

グローバル教養（英語圏）
グローバル教養（アジア圏）
グローバル教養（観光交流文化）
日本語教育
児童英語教育
多文化共生

各プログラムの科目群・修了要件の詳細については、「Ⅸ　副専攻プログラム」を見てください。

２　履修登録

(1)　履修登録の制度

各学期次において履修しようとする授業科目については、学期はじめの指定された期日に、所定の方法で履修登録をしなければなりません。履修登録は、学期間の履修計画を立てて、単位を取得する意思を表示する重要な手続きです。この手続きを間違えると、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級ならびに卒業ができなくなる場合もありますので、くれぐれも誤りのないように注意してください。

① 履修登録は、各学期において指定された期日に所定の方法に従って行ってください。指定の期日に履修登録がなされなかった場合は、在学の意思がないものとして扱われます。
② 履修登録がなされていない授業科目は、履修することができません。たとえ受講したり試験を受けたりしても、採点の対象とならず、単位の認定も行われません。
③ 前学期までに修得すべき必修科目のうち不合格のものがある場合は、当該学期に、まず、その科目を再履修するよう、登録しなければなりません。

(2)　履修単位数の上限

① 各学期に履修できる単位の上限は２２単位です。（登録に当たっては、学習時間を考慮して２０単位を目安に登録することが望ましい）。
② 前号の科目は、自由科目と単位認定制度により認定を受けようとする科目は除きます。
③ 前期のＧＰＡが３．５以上の学生は履修できる単位の上限を緩和し２４単位まで履修登録を認めることがあります。

(3)　クラスの指定について

① 外国語科目など授業科目の性質から、適正人数（少人数）で行うためクラスが指定される授業科目があります。時間割表にクラス指定がなされている授業科目の履修については、原則として、指定されたクラス以外での履修は認められません。
② 所属クラスは、オリエンテーション時及び学期末に外国語学部が実施する「プレイスメントテスト」の結果に基づき編成されます。なお、指定されたクラスの変更は原則として認められません。

(4)　再履修について

① 再履修とは、不合格になった科目を次学期以降に再び履修することをいいます。
② 不合格となった科目が必修科目の場合、再履修して単位を修得しなければなりません。
③ 時間割表にクラス指定がなされている授業科目の再履修については、指定された再履修用クラスで履修してください。再履修用クラスがない授業科目については、現在の指定されたクラスで履

修してください（クラス指定がされていない学生は教務課に相談してください）。また、いずれの場合も、履修登録前に必ず授業科目担当教員に許可を得てください。授業科目担当教員に無断で登録した場合、履修登録が取り消されることがあります。

(5) ゼミナールの履修について

ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲは、大学での学習活動の仕上げとして位置づけられています。他の授業科目とは、性質ならびに履修の方法が著しく異なるため、履修にあたっては説明会へ出席してその主旨を十分に理解し、所定の手続きをしなければなりません。説明会の開催は掲示により通知します。

(6) 卒業論文・課題指導の履修について

卒業論文・課題指導は、５～６セメスターで進めてきた高度な専門学習を引き続き行なうとともに、『卒業論文』を提出することが求められます。履修希望者はゼミナールの授業科目担当教員に許可を得てください。また、当該科目は、７～８セメスターを通じての科目となるため、**必ず７セメスターで履修登録を行ってください**（７セメスターに登録をしていない場合、８セメスターからの登録は認められません。合格すると８セメスター終了時に４単位が付与されます）。

３ 履修登録の手続き

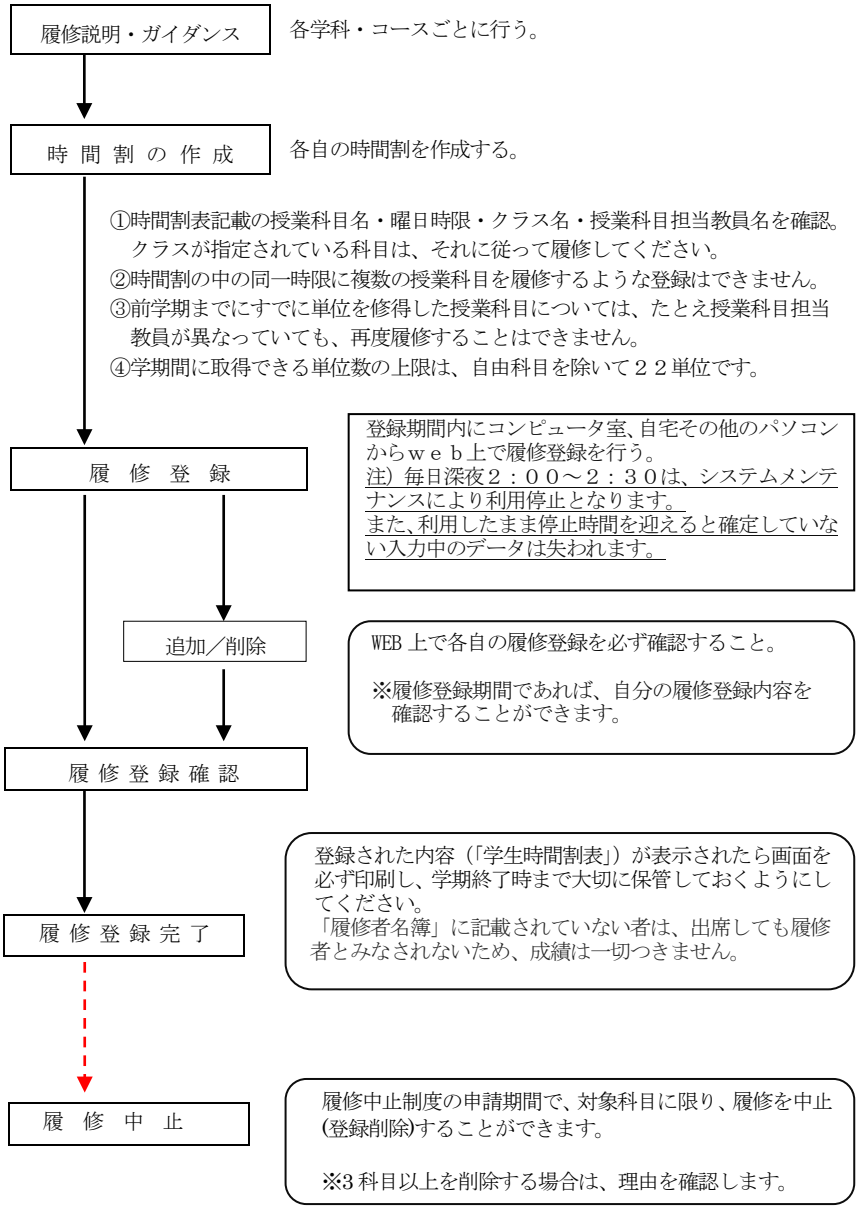
(1) 履修方法

① 履修登録は、パソコンからＷＥＢ上で登録を行います。「ＷＥＢ履修登録　操作説明書」を参照して指定される期日に履修登録を行います。

② 履修登録に先立ち、各自でしっかりとした年間の履修計画を立てることが必要ですが、履修方法などについて疑問が生じたときは、アカデミックアドバイザー、教務委員または教務課に相談してください。

③ 履修登録は、本人が行って下さい。どうしても本人が指定の期日に登録できない場合には、事前に教務課にその旨を届け出て、指示に従って下さい。

(2) 履修登録の流れ


履修説明・ガイダンス
各学科・コースごとに行う。
時 間 割 の 作 成
各自の時間割を作成する。
①時間割表記載の授業科目名・曜日時限・クラス名・授業科目担当教員名を確認。
クラスが指定されている科目は、それに従って履修してください。
②時間割の中の同一時限に複数の授業科目を履修するような登録はできません。
③前学期までにすでに単位を修得した授業科目については、たとえ授業科目担当
教員が異なっていても、再度履修することはできません。
④学期間に取得できる単位数の上限は、自由科目を除いて２２単位です。
履 修 登 録
登録期間内にコンピュータ室、自宅その他のパソコンからｗｅｂ上で履修登録を行う。
注）毎日深夜２：００～２：３０は、システムメンテナンスにより利用停止となります。
また、利用したまま停止時間を迎えると確定していない入力中のデータは失われます。
追加／削除
WEB 上で各自の履修登録を必ず確認すること。
※履修登録期間であれば、自分の履修登録内容を確認することができます。
履 修 登 録 確 認
登録された内容（「学生時間割表」）が表示されたら画面を必ず印刷し、学期終了時まで大切に保管しておくようにしてください。
「履修者名簿」に記載されていない者は、出席しても履修者とみなされないため、成績は一切つきません。
履 修 登 録 完 了
履 修 中 止
履修中止制度の申請期間で、対象科目に限り、履修を中止(登録削除)することができます。
※3 科目以上を削除する場合は、理由を確認します。

(3) 履修登録における注意

履修登録期間は、各学期の授業開始日から１週間を目処に期間が設けられます。出席を重視する授業では、初回から出欠を取りますので、時間割や掲示板を確認のうえ、授業に出席すると同時に登録を行ってください。選択科目も同様の扱いとなりますので、UNIVERSAL PASSPORT に公表しているシラバスをよく確認のうえ、慎重に科目を選んでください。

履修登録を行わなかった場合は、進級・卒業に多大な影響を及ぼすので、登録忘れがないよう注意して下さい。

登録期間の最終日に不測の事態(ＰＣのトラブル)に見舞われ、登録を認められなかったケースが過去にもあります。余裕をもって登録をして下さい。

4　履修中止制度

履修中止制度は、授業に出席してみたものの、授業内容が自分の勉強したいものと違っていた、授業のスピードについていけるだけの知識が不足していた、自分の履修計画を見直した結果、履修科目数を減らしたい、といった理由で、単位の取得が難しい場合に不合格評価によってＧＰＡが下がることを回避するために、登録した科目の履修を取りやめる制度です。

≪中止ができない科目≫

○必修科目は、中止できません。
○一部の他学部との合同科目、他学部履修で登録した科目は、中止できません。
○教職課程科目、インターンシップ等の科目は、中止できません。
○その他、外国語学部が定める科目についても、中止できません。

≪履修中止制度の申請期間は、ガイダンスや掲示で周知します。≫

春学期　　令和２年　４月２０日　～　　５月　６日
秋学期　　令和２年１０月　６日　～　１０月１６日

※原則、授業開始後、最初に４回目の授業が実施される日の前日から起算して、７授業実施日に期間が設けられます。

≪手続き方法≫

○所定の申請書類を、教務課に提出して下さい。
○中止する科目数に上限はありませんが、３科目以上放棄しようとした場合は、理由を確認します。
○履修中止をした科目の申請は、取り下げることはできません。

Ⅳ　単位認定

1　単位認定制度について

(1)　各制度の内容

学習の種類等	概要	認定される単位の上限	
入学前の既修得単位等の認定	①既修得単位 本学入学前に他の大学、短期大学または専修学校で修得した単位の認定	62 単位	
他の大学における授業科目の履修等	②外国の教育機関への留学（３ヶ月以上の留学）	※1	合計60単位
	③外国の教育機関への留学（海外研修） 海外の協定校等に休暇期間中に短期間研修留学し、所定のプログラムを修めたことによる単位の認定	※2	
	④大学コンソーシアム八王子加盟大学間単位互換 大学コンソーシアム八王子における加盟大学間単位互換制度による単位の認定	8 単位	
その他	⑤インターンシップ 企業などにおける実習・研修的な就業体験の成果に対して行う単位認定	3 単位	
	⑥検定試験・資格 対象となる検定試験の合格や資格取得の成果に対して行う単位認定	※3	
	⑦アドバンストプレイスメント 高等学校、中等教育学校在学中に本学あるいは他大学で修得した単位の認定	※4	

（※1、※2）留学先により異なります。
（※3）検定・資格の区分により異なります。
（※4）認定される単位の上限は②、③、④と合計し 60 単位までになります。

(2)　外国の教育機関への留学について

①　原則として、本学に１年以上在籍した者が留学できます。
②　留学の期間は３ヶ月以上でなければなりません。
③　留学期間は通算２年を超えない範囲で延長を許可することがあります。

④ 帰国後、すみやかに（原則として１ヶ月以内）単位認定に必要な書類を提出してください。

⑤ 留学によって得た単位全てが認定されるわけではありません。留学先との学事暦の違いによって学修期間の空白が起こり、４年で卒業できない可能性もあります。留学はリスクを伴う行動であることをよく認識してください。

(3) 外国の教育機関への留学（海外研修）の履修について

参加し成果が認められた場合に単位が認定されます。なお、履修登録は不要です。

(4) 大学コンソーシアム八王子加盟大学間単位互換について

八王子地域の「大学コンソーシアム八王子」に加盟する大学と単位互換協定を締結しています。これにより、本学以外の大学で開講する所定の正規授業を、履修料等免除で受講し単位を修得することができます。

(5) インターンシップの履修について

事前講義・事後講義への出席、実習先企業からの評価、レポートの提出・発表を総合して、その成果が認められた場合に単位が認定されます。

(6) 検定試験合格・資格取得による単位認定について

在学中に検定試験の合格、資格を取得した際に単位認定を認められる場合があります。
詳細は教務課からの掲示を確認してください。

(7) アドバンストプレイスメントに関する単位認定について

高等学校、中等教育学校等に在学中に本学あるいは他大学で履修し単位を付与された授業科目については本人からの申し出により単位認定をおこないます。ただし単位の認定は入学後１年以内に限られます。詳細は教務課窓口で確認してください。

Ⅴ　試験

1　試験の種類

授業科目の単位の認定及びその成績は、平常点や平常試験、及び試験（定期試験、追試験、再試験）の総合判定により評価します。

(1)　平常点・平常試験

①　平常点とは、授業などを通じて行われる学業成績評価の方法をいいます。
②　平常試験とは、授業時間中などに随時実施される試験をいいます。

（注）平常試験は追試験の対象となりません。やむを得ない事情により受けることができなかった場合の措置は、授業科目担当教員の判断によりますので、各自で確認してください。

(2)　定期試験

定期試験とは、学期末の指定期間に、特別の時間割のもとに実施される試験です（一部の科目については、指定期間の約１週間前に行う場合があります)。なお、授業科目によっては、定期試験実施の代わりに、レポート提出を課す場合があります。

(3)　追試験

①　対象者
追試験とは、病気その他の正当な理由により定期試験を受けることができなかった学生に対して、定期試験に代えて実施される試験です。

②　対象科目
追試験については、該当する学生の受験願に基づき、対象となります。
科目の授業科目担当教員と教務委員会とが協議のうえ、教授会の承認を経て、試験を実施する科目と学生が決定されます。

③　手続き方法
追試験を希望する学生は、指定の期日までに教務課に「追試験願」に以下の書類を添付し、提出しなければなりません。提出期間については、掲示板に掲示するので各自確認してください。

欠席理由	添付する書類
学校感染症に罹患した場合	感染症罹患証明書、医師の診断書
病気、けがで登校不能な場合	医師の診断書
忌引、近親者が重病の場合	会葬礼状（コピー可）または保証人の連署押印した書類
電車・バスの遅延	遅延証明書
事故及び災害	事故・災害を証明する公的機関が発行した書類

注)　1　感染症罹患証明書は大学指定の書式、又は医療機関が作成する書式のどちらでも良い。大学指定の書式は以下のURLからダウンロードすること。
https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/center/health/kansen/rikan.pdf

2　「忌引き、近親者が重病の場合」の対象となるのは、２親等以内の親族とする。

3　自転車の通学は、すべて本人の責任において行うものとし、事故等により定期試験が受験できなかったとしても、追試験の対象とはならない。

4　上記の取り扱いは、授業時間中などに実施される試験（平常試験）は除きます。

5　追試験として受験が認められた科目が、再試験の対象科目となった場合は、再試験として受験するものとする。

(4)　再試験

再試験の受験は以下の条件のもと、教授会の承認を経て、受験が許可されます。

①　対象者

ア　再試験は、第４学期及び最終学期（第８学期）においてのみ実施される。

イ　進級及び卒業に不足する単位数が、６単位以内の場合にのみ、次に定める対象科目のうち、６単位を上限として実施される。

②　対象科目

ア　当該科目の単位の修得により、進級または卒業が可能となるものに限られる。

イ　当該学期において履修し、不合格（D 評価）の評価を得たものに限られる。

ウ　当該科目の定期試験が実施されている場合は、受験していなければならない。

③　手続き方法

第４学期から第５学期への進級保留者及び最終学期の卒業保留者は、春学期は８月下旬、秋学期は２月中旬頃に掲示にて発表されます。保留者となった者は、下記のとおり手続きを行ってください。

(a)　発表当日に行う保留者説明会に必ず出席すること（出席しないと再試験が受験できない場合があります）。

(b)　再試験の対象科目がある場合は、説明会での指示に従い速やかに申請を行うこと。
（注）　学生証と受験料（１科目　2,000 円）が必要となります。

(c)　再試験の日程・時間割・実施方法については、再試験期間の数日前に掲示するので、各自掲示板で確認すること。

2　試験に関する一般的な注意事項

(1)　受験資格についての注意事項

① 学期のはじめに履修登録をした科目についてのみ、受験することができます。また、追試験や再試験については、所定の受験願などの手続きをして、許可された場合にのみ、受験することができます。

② 実授業回数の３分の２以上の出席をしていない場合や、その他、授業科目ごとに指定された条件を欠く場合には、その科目の試験を受験できないことがあります。

③ 授業料その他の学納金を納めていない者は受験資格がありません。

(2)　試験実施にあたっての注意事項

① 試験の時間割、科目ごとの実施方法、その他の注意事項は、原則として掲示により発表します。その他、平常の授業時間中などにも、しばしば小テストや試験が実施されますので、授業時間中の指示にも注意してください。

② 定期試験の実施時間帯は、通常の授業時間帯と異なりますので注意してください。試験の実施日時を間違えると試験を受けることができず、追試験の対象にもなりません。

(3)　受験にあたっての注意事項

① 指定された試験場で受験してください。同一科目であっても、在学学期・学籍番号によって、試験場が異なる場合がありますので注意してください。

② 試験場には学生証を必ず持参してください。学生証を持参しない者は受験できません。学生証を忘れた場合には、「定期試験時の学生証事故届」を発行してもらってください。ただし、「定期試験時の学生証事故届」は、試験当日を含め４日以内に教務課に学生証と共に提示し、照合を受けてください。前項の手続きを行わない場合は、不正行為とみなされます。

③ 受験にあたっては、授業科目担当教員や係員の指示に従わなければなりません。

④ 試験開始後２０分を越えて遅刻した者は、受験することができま せん。

⑤ 学籍番号・氏名をはじめ、答案用紙の所定の記入事項は、読み易く、丁寧に記載してください。

⑥ 不正行為を行った者は、内規に従って厳重に処分されます。私語その他疑義をまねくような態度も控えるよう注意してください。なお、試験にかわるレポートの場合もこれを準用します。

3　レポート提出に関する注意事項

科目によっては、試験実施の代わりに、レポート提出を課す場合があります。授業科目担当教員からレポート提出の指示があった場合は、次の事項に注意しなければなりません。

(1)　提出するレポートには、各自表紙をつけ、その表紙には、科目名・授業科目担当教員名、提出者の学籍番号・氏名、提出年月日を明記してください。

(2)　レポートは必ず綴じて提出してください。

(3)　提出場所は、原則として、教務課レポートボックスとします。その旨を掲示しますので、指示に従ってください。

(4)　一度提出したレポートについては、以後、内容の変更・訂正は認められません。提出前に十分に注意してください。

(5)　提出期限と指示された提出場所を厳守してください。これらに違反したレポートなどの提出物は、一切無効とします。

(6)　その他、授業科目担当教員の指示に従ってください。

Ⅵ　成績

1　成績評価・表記

成績の評価及び表記は、次のとおりです。（総合判定を１００点とした場合の成績評価）

判定	合格				不合格	不能	認定	中止
点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59～0	出席不良等		
成績通知書に表記される評価	S	A	B	C	D	E	N	W
成績証明書に表記される評価	S	A	B	C	表記されない		N	表記されない

注）１「D」は上記点数のほか、定期試験を欠席した場合も含みます。
　　２「N」は単位認定制度により、認定を受けた授業科目について表記されます。
　　３「W」は履修中止制度により、履修を中止（登録削除）した授業科目について表記されます。
　　４「E」は原則として追試験及び再試験は受験できません。

2　ＧＰＡ制度について

ＧＰＡ(Grade Point Average)とは、国際社会で広く採用されている客観的な成績評価基準です。ＧＰＡはいわゆる高等学校の評定平均値のように、学業成績を総合的に判断する指標として利用されており、本学部では学生の個別指導や奨学金の給付・貸与者の決定の際などの基礎資料に活用します。

また、学生の皆さんはこのＧＰＡ値を、学修意欲の向上や、履修計画の見通しを立てることに繋げるとともに、単位取得という学修の“量”だけでなく、その“質”の重要性にも向き合ってください。

ＧＰＡ制度に関する詳しい内容は、外国語学部履修規程第５条の２を参照してください。

◎成績に対する評点

点　数	合格				不合格		認定
成績評価	S	A	B	C	D	E	N
評　点	4	3	2	1	0		—

◎ＧＰＡの算出方法

$$ＧＰＡ＝\frac{\{(各学期の評価を受けた科目のＧＰ)×(当該科目の単位数)\}の累計}{(各学期配当の履修登録の単位数の合計)の累計}$$

※各学期配当の履修登録の単位数の合計には、不合格（Ｄ、Ｅ）の単位数を含みます。

◎ＧＰＡによる履修指導について

前学期のＧＰＡが１．３以下の場合は、アカデミックアドバイザーの指導により、履修登録の上限数を定めることがあります。

前学期のＧＰＡが１．５以下の場合は、アカデミックアドバイザーの指導により、履修計画を提出することになります。計画が認められないと履修登録ができませんので注意してください。

学期途中にアカデミックアドバイザーとの面談を行い､学修状況の報告を行うこともあります。

なお、ＧＰＡの数値が著しく低い場合は、進級、卒業に多大な影響を及ぼすことがあり、退学を勧告する場合もありますので、注意してください。

3　成績発表

成績発表は、次のとおり成績通知書の交付により行います。

区分	交付日	交付先	交付方法
春学期	９月上旬	保証人（保護者） ※保証人に交付を希望しない者を除く。	郵送
秋学期	３月上旬		

注）１　住所変更がある場合は、早めに変更の手続きを行ってください。
　　２　保証人（保護者）に交付を希望しない者は申し出てください。
　　３　外国人留学生は学生本人にも交付します。
　　４　成績通知書の追加発行は行いません。

4　成績評価の問い合わせについて

自身の成績評価について、確固たる根拠がある場合のみ、当該科目の担当教員に質問することができます。その際は、教務課にある申請用紙「成績評価に関する問い合わせ」を提出してください。ただし、懇願的で救済措置を求める内容は、受け付けません。

なお、担当教員が質問の趣旨を明らかにするため、質問者に直接たずねる場合があります。

5　学期末日程について

春学期は6月下旬、秋学期は１２月下旬に「学期末日程」を掲示します。追試験申請手続き締め切り、進級保留者・卒業保留者発表及び追・再試験申請等は各自の責任において、必ず掲示板で確認してください。

注）掲示の日程については変更になる場合があります。

Ⅶ　卒業と進級

1　卒業の要件

本学部を卒業して学士の称号を得るためには、４年間（８学期）以上在学し、所属の学科（またはコース）ごとに定める単位（下記参照）を含めて、１２４単位以上を修得しなければなりません（学則第３９条第４項）。また、８年（１６学期）を超えて在学することはできません（学則第１７条第１項）。

なお、必修となる授業科目、単位数その他の卒業要件は、入学時の規定が卒業まで適用されますので、履修にあたっては十分に注意してください。

(1) 学科・コース別の必修科目及び選択必修科目の科目数並びに単位数

学科・コース ＼ 科目数・単位数		科目数	合計 外国語科目A	外国語科目B	基盤教育科目	教養科目	専門科目	専門科目A	専門科目B	合計
英語学科	英語ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ	46	24	—	25	—	14	—	—	63
	英語教育ｺｰｽ	48	24	—	25	—	18	—	—	67
中国語学科	—	38	14	—	25	—	18	—	—	57
観光交流文化学科	—	46※	20	—	27	4	—	16	—	67

外国語科目において

英語学科では、「英語Ⅰ～Ⅷ」８科目８単位及び「中国語Ⅰ～Ⅵ」６科目６単位の合計１４単位を必修、中国語学科では、「英語Ⅰ～Ⅳ」６科目６単位及び「中国語Ⅰ～Ⅷ」８科目８単位の合計１４単位を必修、観光交流文化学科では、「英語Ⅰ～Ⅷ」８科目８単位及び「中国語Ⅰ～Ⅵ」６科目６単位の合計１４単位を必修とする。外国人留学生は、英語または中国語いずれかの替わりに、日本語を必修とする（ただし、日本語能力により追加する場合があります）。

※英語学科・英語教育コースは選択必修科目「英語学特論Ⅰ～Ⅳ」より２科目４単位以上を選択必修とする。

※中国語学科は専門科「ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ」、「中国語通訳法Ⅰ・Ⅱ」、「中国語翻訳法Ⅰ・Ⅱ」「中国語演習Ⅰ～Ⅳ」より２科目４単位以上を選択必修とする。

※観光交流文化学科の基盤教育科目・選択必修科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」、「インターンシップⅢ」科目（いずれも１単位）を含む場合は、４７科目である。

(2) 転・編入生の卒業要件について

転・編入生は杏林大学に転・編入学時に、原則として６２単位の単位を認定されています。入学後、杏林大学を卒業するには、４学期間以上在籍し、６２単位以上を修得しなければなりません。その単位の履修は以下のようになります。

① 第５学期以降の必修科目は履修しなければなりません。
② 履修する学生の語学力によって、教務委員会が外国語科目の単位のとり方について指導する場合があります。その場合は教務委員会の指示に従って下さい。

２ 進級の条件

(1) 通常の進級条件

第５学期への進級に際して、卒業に必要な総単位数のうち、６２単位以上を修得していなければなりません。他の学期への進級には、１単位以上を修得していることが必要です。

(2) 留学期（留セメスター）

前項により進級の認定がなされなかった学生は留学期（留セメスター）とし、原級に留めるものとします。

(3) 進級できなかった場合の科目履修

留学期（留セメスター）の学生は、当該学期次の未取得科目を履修しなければなりません。また、そのほか、授業科目担当教員及び教務委員会が協議のうえ、次の配当学期の科目の履修を認める場合があります。

Ⅷ　授業科目

英語学科

① 外国語科目Ａ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
英語Ⅰ	1	1		ENG1100	留学生等本学が指定する学生は日本語８単位必修
英語Ⅱ	1	1		ENG1101	
英語Ⅲ	1	1		ENG1102	
英語Ⅳ	1	1		ENG1103	
英語Ⅴ	3	1		ENG2100	
英語Ⅵ	3	1		ENG2101	
英語Ⅶ	3	1		ENG2102	
英語Ⅷ	3	1		ENG2103	
英語文法Ⅰ	1	1		ENG1104	
英語文法Ⅱ	1	1		ENG1105	
英語作文Ⅰ	3	1		ENG2104	
英語作文Ⅱ	3	1		ENG2105	
実用英語Ⅰ	1	1		ENG1106	
実用英語Ⅱ	1	1		ENG1107	
実用英語Ⅲ	3	1		ENG2106	
実用英語Ⅳ	3	1		ENG2107	
実用英語演習Ⅰ	1	1		ENG1108	
実用英語演習Ⅱ	1	1		ENG1109	
中国語Ⅰ	1	1		CHN1100	
中国語Ⅱ	1	1		CHN1101	
中国語Ⅲ	1	1		CHN1102	
中国語Ⅳ	1	1		CHN1103	
中国語Ⅴ	3	1		CHN2100	
中国語Ⅵ	3	1		CHN2101	

日本語Ⅰ	1		1	JPN1100	
日本語Ⅱ	1		1	JPN1101	
中国語Ⅵ	3	1		CHN2101	
日本語Ⅲ	1		1	JPN1102	
日本語Ⅳ	1		1	JPN1103	
日本語Ⅴ	1		1	JPN1104	
日本語Ⅵ	1		1	JPN1105	
日本語Ⅶ	1		1	JPN1106	
日本語Ⅷ	1		1	JPN1107	

② 外国語科目B

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
目的別英語演習Ⅰ	3		2	ENG2108	
目的別英語演習Ⅱ	3		2	ENG2109	
目的別英語演習Ⅲ	3		2	ENG2110	
目的別英語演習Ⅳ	3		2	ENG2111	
目的別英語演習Ⅴ	3		2	ENG2112	
目的別英語演習Ⅵ	3		2	ENG2113	
目的別英語演習Ⅶ	3		2	ENG2114	
目的別中国語演習Ⅰ	3		2	CHN2104	
目的別中国語演習Ⅱ	3		2	CHN2105	
目的別中国語演習Ⅲ	3		2	CHN2106	
目的別中国語演習Ⅳ	3		2	CHN2107	
目的別中国語演習Ⅴ	3		2	CHN2108	
韓国語Ⅰ	3		2	KOR2100	
韓国語Ⅱ	3		2	KOR2101	
韓国語Ⅲ	5		2	KOR3100	
韓国語Ⅳ	5		2	KOR3101	
ドイツ語Ⅰ	3		2	GER2100	
ドイツ語Ⅱ	3		2	GER2101	
ドイツ語Ⅲ	5		2	GER3100	
ドイツ語Ⅳ	5		2	GER3101	
フランス語Ⅰ	3		2	FRN2100	
フランス語Ⅱ	3		2	FRN2101	
フランス語Ⅲ	5		2	FRN3100	
フランス語Ⅳ	5		2	FRN3101	
スペイン語Ⅰ	3		2	SPN2100	
スペイン語Ⅱ	3		2	SPN2101	
スペイン語Ⅲ	5		2	SPN3100	
スペイン語Ⅳ	5		2	SPN3101	
口語英語Ⅰ	1		1	ENG1110	

口語英語Ⅱ	1		1	ENG1111	
口語英語Ⅲ	1		1	ENG1112	
口語英語Ⅳ	1		1	ENG1113	
口語英語Ⅴ	1		1	ENG1114	
口語英語Ⅵ	1		1	ENG1115	
口語英語Ⅶ	1		1	ENG1116	
口語英語Ⅷ	1		1	ENG1117	
口語中国語Ⅰ	1		1	CHN1104	
口語中国語Ⅱ	1		1	CHN1105	
口語中国語Ⅲ	1		1	CHN1106	
口語中国語Ⅳ	1		1	CHN1107	
口語中国語Ⅴ	1		1	CHN1108	
口語中国語Ⅵ	1		1	CHN1109	
口語中国語Ⅶ	1		1	CHN1110	
口語中国語Ⅷ	1		1	CHN1111	

③　基盤教育科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
大学入門Ⅰ	1	1		GEN1100	
大学入門Ⅱ	1	1		GEN1101	
日本語表現実習Ⅰ	1	1		GEN1102	
日本語表現実習Ⅱ	1	1		GEN1103	
グローバルコミュニケーション論	1	2		GEN1104	
グローバル人材論	1	2		GEN1105	
日本文化論	3	2		GEN2100	
ホスピタリティ・コミュニケーション	1	1		GEN1106	
地域と大学	1	2		GEN1107	
キャリアデザインⅠ	3	2		GEN2101	
キャリアデザインⅡ	3	2		GEN2102	
キャリアデザインⅢ	5	2		GEN3100	
キャリアデザインⅣ	5	2		GEN3101	
キャリアデザインⅤ	5	2		GEN3102	
キャリアデザインⅥ	5	2		GEN3103	
キャリアデザイン演習	7		2	GEH3100	
フィールドスタディⅠ	1		2	GEH1100	
フィールドスタディⅡ	1		2	GEH1101	
フィールドスタディⅢ	1		2	GEH1102	
フィールドスタディⅣ	1		2	GEH1103	
フィールドスタディⅤ	1		2	GEH1104	
インターンシップⅠ	3		1	GEH2100	
インターンシップⅡ	3		1	GEH2101	
インターンシップⅢ	5		1	GEH3101	

④　教養科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
異文化コミュニケーション	1		2	GEH1105	ことばと文化
ことばと文化	1		2	GEH1106	
ことばと社会	1		2	GEH1107	
言語の歴史(英)	1		2	GEH1108	
言語の歴史(中)	1		2	GEH1109	
言語の歴史(日)	1		2	GEH1110	
英語文学Ⅰ	1		2	GEH1139	
英語文学Ⅱ	1		2	GEH1140	
アジアの文学・文化(日)	1		2	GEH1113	
アジアの文学・文化(中)	1		2	GEH1114	
アジアの文学・文化(韓)	1		2	GEH1115	
グローバル社会と国際協力	1		2	GEH1116	グローバル社会と地域
ダイバーシティ入門	1		2	GEH1117	
日本と世界の近現代史	1		2	GEH1118	
生活と法	1		2	GEH1119	
日本国憲法	1		2	GEH1120	
社会学	1		2	GEH1121	
ミクロ経済学	1		2	GEH1122	
マクロ経済学	1		2	GEH1123	
統計学	1		2	GES1100	
観光学入門	1		2	TRM1100	
マーケティング入門	1		2	TRM1101	
ホスピタリティ入門	1		2	TRM1102	
アジアン・ホスピタリティ	1		2	TRM1103	
人文地理学	1		2	GEH1124	
自然地理学	1		2	GEH1125	
地域圏研究Ⅰ	1		2	GEH1126	

地域圏研究Ⅱ	1		2	GEH1127	
地域圏研究Ⅲ	1		2	GEH1128	
地域圏研究Ⅳ	1		2	GEH1129	
地域圏研究Ⅴ	1		2	GEH1130	
地域圏研究Ⅵ	1		2	GEH1131	
哲学	1		2	GEH1132	人間と健康
倫理学	1		2	GEH1133	
心理学	1		2	GEH1134	
宗教学	1		2	GEH1135	
健康科学Ⅰ	1		2	GES1101	
健康科学Ⅱ	1		2	GES1102	
体育理論	1		1	GEH1136	
体育実技	1		1	GEH1137	
ファシリテーション論	1		2	TRM1104	
日本語学概論	1		2	JPN1108	日本語教育
日本語教育概論	1		2	JPN1109	
日本語学特論Ⅰ	1		2	JPN1110	
日本語学特論Ⅱ	1		2	JPN1111	
日本語学特論Ⅲ	1		2	JPN1112	
日本語学特論Ⅳ	1		2	JPN1113	
日本語教育学特論Ⅰ	1		2	JPN1114	
日本語教育学特論Ⅱ	1		2	JPN1115	
日本語教育学特論Ⅲ	1		2	JPN1116	
日本語教育学特論Ⅳ	1		2	JPN1117	
日本語授業の実際Ⅰ	1		2	JPN1118	
日本語授業の実際Ⅱ	1		2	JPN1119	
日本語教育実習Ⅰ	3		1	JPN2100	
日本語教育実習Ⅱ	3		1	JPN2101	
日本文化演習Ⅰ	1		2	JPN1120	
日本文化演習Ⅱ	1		2	JPN1121	

⑤　専門科目（英語ビジネスコミュニケーションコース）

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
Writing　Strategies	5		2	ENG3143	
Integrated English Ⅰ	5		2	ENG3144	
Integrated EnglishⅡ	5		2	ENG3145	
Communication Strategies	5		2	ENG3146	
ビジネスイングリッシュⅠ	5	2		ENG3104	
ビジネスイングリッシュⅡ	5	2		ENG3105	
グローバルビジネス論Ⅰ	3	2		ENG2115	
グローバルビジネス論Ⅱ	3	2		ENG2116	
ビジネスコミュニケーション論Ⅰ	5		2	ENG3106	
ビジネスコミュニケーション論Ⅱ	5		2	ENG3107	
ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ	5		2	ENG3108	
ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ	5		2	ENG3109	
Introduction to Business	3		2	ENG2117	
Introduction to Economics	3		2	ENG2118	
Business Cycle and Monetary Policy	3		2	ENG2119	
現代企業論	5		2	ENG3110	
経営戦略論	5		2	ENG3111	
人材マネジメント論	5		2	ENG3112	
国際会計論	5		2	ENG3113	
国際経済学Ⅰ	5		2	ENG3114	
国際経済学Ⅱ	5		2	ENG3115	
アメリカ政治論	5		2	ENG3116	
アメリカ経済論	5		2	ENG3117	
ヨーロッパ政治論	5		2	ENG3118	
ヨーロッパ経済論	5		2	ENG3119	
アジア政治論	5		2	ENG3120	
アジア経済論	5		2	ENG3121	
ゼミナールⅠ	5	2		GEN3104	
ゼミナールⅡ	5	2		GEN3105	
ゼミナールⅢ	7	2		GEN3106	
卒業論文・課題指導	7･8		4	GEH3102	

⑥　専門科目（英語教育コース）

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
Writing　Strategies	5		2	ENG3143	
Integrated English Ⅰ	5		2	ENG3144	
Integrated EnglishⅡ	5		2	ENG3145	
Communication Strategies	5		2	ENG3146	
英語発音聴取	3	2		ENG2120	
英語翻訳論	5		2	ENG3122	
英語翻訳ワークショップ	5		2	ENG3123	
比較文化と異文化理解	3		2	ENG2124	
英語学特論Ⅰ	5		2	ENG3124	
英語学特論Ⅱ	5		2	ENG3125	選択必修
英語学特論Ⅲ	5		2	ENG3126	4単位以上
英語学特論Ⅳ	5		2	ENG3127	
英語学演習Ⅰ	5		2	ENG3128	
英語学演習Ⅱ	5		2	ENG3129	
英語学演習Ⅲ	5		2	ENG3130	
英語学演習Ⅳ	5		2	ENG3131	
英語音声学	5	2		ENG3132	
社会言語学	5		2	ENG3133	
認知言語学	5		2	ENG3134	
英語教育論Ⅰ	3	2		ENG2122	
英語教育論Ⅱ	3	2		ENG2123	
英語科教育法Ⅰ	5		2	ENG3135	
英語科教育法Ⅱ	5		2	ENG3136	
児童英語教育論Ⅰ	5		2	ENG3137	
児童英語教育論Ⅱ	5		2	ENG3138	
児童英語教育教材研究	5		2	ENG3139	
児童英語教育実習	5		1	ENG3140	
英語教育演習Ⅰ	5		2	ENG3141	
英語教育演習Ⅱ	5		2	ENG3142	
情報処理	1		2	GEH1138	
ゼミナールⅠ	5	2		GEN3104	
ゼミナールⅡ	5	2		GEN3105	

ゼミナールⅢ	7	2		GEN3106	
卒業論文・課題指導	7･8		4	GEH3102	

⑦　関連科目（英語ビジネスコミュニケーションコース・英語教育コース共通）

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
他学部の設置課目					

中国語学科

① 外国語科目Ａ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
英語Ⅰ	1	1		ENG1100	留学生等本学が指定する学生は日本語８単位必修
英語Ⅱ	1	1		ENG1101	
英語Ⅲ	1	1		ENG1102	
英語Ⅳ	1	1		ENG1103	
英語Ⅴ	3	1		ENG2100	
英語Ⅵ	3	1		ENG2101	
中国語Ⅰ	1	1		CHN1100	
中国語Ⅱ	1	1		CHN1101	
中国語Ⅲ	1	1		CHN1102	
中国語Ⅳ	1	1		CHN1103	
中国語Ⅴ	3	1		CHN2100	
中国語Ⅵ	3	1		CHN2101	
中国語Ⅶ	3	1		CHN2102	
中国語Ⅷ	3	1		CHN2103	
日本語Ⅰ	1		1	JPN1100	
日本語Ⅱ	1		1	JPN1101	
日本語Ⅲ	1		1	JPN1102	
日本語Ⅳ	1		1	JPN1103	
日本語Ⅴ	1		1	JPN1104	
日本語Ⅵ	1		1	JPN1105	
日本語Ⅶ	1		1	JPN1106	
日本語Ⅷ	1		1	JPN1107	

② 外国語科目Ｂ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
目的別英語演習Ⅰ	3		2	ENG2108	
目的別英語演習Ⅱ	3		2	ENG2109	
目的別英語演習Ⅲ	3		2	ENG2110	
目的別英語演習Ⅳ	3		2	ENG2111	
目的別英語演習Ⅴ	3		2	ENG2112	
目的別英語演習Ⅵ	3		2	ENG2113	
目的別英語演習Ⅶ	3		2	ENG2114	
目的別中国語演習Ⅰ	3		2	CHN2104	
目的別中国語演習Ⅱ	3		2	CHN2105	
目的別中国語演習Ⅲ	3		2	CHN2106	
目的別中国語演習Ⅳ	3		2	CHN2107	
目的別中国語演習Ⅴ	3		2	CHN2108	
韓国語Ⅰ	3		2	KOR2100	
韓国語Ⅱ	3		2	KOR2101	
韓国語Ⅲ	5		2	KOR3100	
韓国語Ⅳ	5		2	KOR3101	
ドイツ語Ⅰ	3		2	GER2100	
ドイツ語Ⅱ	3		2	GER2101	
ドイツ語Ⅲ	5		2	GER3100	
ドイツ語Ⅳ	5		2	GER3101	
フランス語Ⅰ	3		2	FRN2100	
フランス語Ⅱ	3		2	FRN2101	
フランス語Ⅲ	5		2	FRN3100	
フランス語Ⅳ	5		2	FRN3101	
スペイン語Ⅰ	3		2	SPN2100	
スペイン語Ⅱ	3		2	SPN2101	
スペイン語Ⅲ	5		2	SPN3100	
スペイン語Ⅳ	5		2	SPN3101	
口語英語Ⅰ	1		1	ENG1110	
口語英語Ⅱ	1		1	ENG1111	

口語英語Ⅲ	1		1	ENG1112	
口語英語Ⅳ	1		1	ENG1113	
口語英語Ⅴ	1		1	ENG1114	
口語英語Ⅵ	1		1	ENG1115	
口語英語Ⅶ	1		1	ENG1116	
口語英語Ⅷ	1		1	ENG1117	
口語中国語Ⅰ	1		1	CHN1104	
口語中国語Ⅱ	1		1	CHN1105	
口語中国語Ⅲ	1		1	CHN1106	
口語中国語Ⅳ	1		1	CHN1107	
口語中国語Ⅴ	1		1	CHN1108	
口語中国語Ⅵ	1		1	CHN1109	
口語中国語Ⅶ	1		1	CHN1110	
口語中国語Ⅷ	1		1	CHN1111	

③　基盤教育科目

授業科目	学期次	単位数		科目 ナンバリング	備考
		必修	選択		
大学入門Ⅰ	1	1		GEN1100	
大学入門Ⅱ	1	1		GEN1101	
日本語表現実習Ⅰ	1	1		GEN1102	
日本語表現実習Ⅱ	1	1		GEN1103	
グローバル コミュニケーション論	1	2		GEN1104	
グローバル人材論	1	2		GEN1105	
日本文化論	3	2		GEN2100	
ホスピタリティ・ コミュニケーション	1	1		GEN1106	
地域と大学	1	2		GEN1107	
キャリアデザインⅠ	3	2		GEN2101	
キャリアデザインⅡ	3	2		GEN2102	
キャリアデザインⅢ	5	2		GEN3100	
キャリアデザインⅣ	5	2		GEN3101	
キャリアデザインⅤ	5	2		GEN3102	
キャリアデザインⅥ	5	2		GEN3103	
キャリアデザイン演習	7		2	GEH3100	
フィールドスタディⅠ	1		2	GEH1100	
フィールドスタディⅡ	1		2	GEH1101	
フィールドスタディⅢ	1		2	GEH1102	
フィールドスタディⅣ	1		2	GEH1103	
フィールドスタディⅤ	1		2	GEH1104	
インターンシップⅠ	3		1	GEH2100	
インターンシップⅡ	3		1	GEH2101	
インターンシップⅢ	5		1	GEH3101	

④　教養科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
異文化コミュニケーション	1		2	GEH1105	ことばと文化
ことばと文化	1		2	GEH1106	
ことばと社会	1		2	GEH1107	
言語の歴史(英)	1		2	GEH1108	
言語の歴史(中)	1		2	GEH1109	
言語の歴史(日)	1		2	GEH1110	
英語文学Ⅰ	1		2	GEH1139	
英語文学Ⅱ	1		2	GEH1140	
アジアの文学・文化(日)	1		2	GEH1113	
アジアの文学・文化(中)	1		2	GEH1114	
アジアの文学・文化(韓)	1		2	GEH1115	
グローバル社会と国際協力	1		2	GEH1116	グローバル社会と地域
ダイバーシティ入門	1		2	GEH1117	
日本と世界の近現代史	1		2	GEH1118	
生活と法	1		2	GEH1119	
日本国憲法	1		2	GEH1120	
社会学	1		2	GEH1121	
ミクロ経済学	1		2	GEH1122	
マクロ経済学	1		2	GEH1123	
統計学	1		2	GES1100	
観光学入門	1		2	TRM1100	
マーケティング入門	1		2	TRM1101	
ホスピタリティ入門	1		2	TRM1102	
アジアン・ホスピタリティ	1		2	TRM1103	
人文地理学	1		2	GEH1124	

自然地理学	1		2	GEH1125	
地域圏研究Ⅰ	1		2	GEH1126	
地域圏研究Ⅱ	1		2	GEH1127	
地域圏研究Ⅲ	1		2	GEH1128	
地域圏研究Ⅳ	1		2	GEH1129	
地域圏研究Ⅴ	1		2	GEH1130	
地域圏研究Ⅵ	1		2	GEH1131	
哲学	1		2	GEH1132	人間と健康
倫理学	1		2	GEH1133	
心理学	1		2	GEH1134	
宗教学	1		2	GEH1135	
健康科学Ⅰ	1		2	GES1101	
健康科学Ⅱ	1		2	GES1102	
体育理論	1		1	GEH1136	
体育実技	1		1	GEH1137	
ファシリテーション論	1		2	TRM1104	
日本語学概論	1		2	JPN1108	日本語教育
日本語教育概論	1		2	JPN1109	
日本語学特論Ⅰ	1		2	JPN1110	
日本語学特論Ⅱ	1		2	JPN1111	
日本語学特論Ⅲ	1		2	JPN1112	
日本語学特論Ⅳ	1		2	JPN1113	
日本語教育学特論Ⅰ	1		2	JPN1114	
日本語教育学特論Ⅱ	1		2	JPN1115	
日本語教育学特論Ⅲ	1		2	JPN1116	
日本語教育学特論Ⅳ	1		2	JPN1117	
日本語授業の実際Ⅰ	1		2	JPN1118	
日本語授業の実際Ⅱ	1		2	JPN1119	
日本語教育実習Ⅰ	3		1	JPN2100	
日本語教育実習Ⅱ	3		1	JPN2101	
日本文化演習Ⅰ	1		2	JPN1120	
日本文化演習Ⅱ	1		2	JPN1121	

⑤　専門科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
インテンシブ中国語Ⅰ	1		1	CHN1112	
インテンシブ中国語Ⅱ	1		1	CHN1113	
インテンシブ中国語Ⅲ	1		1	CHN1114	
インテンシブ中国語Ⅳ	1		1	CHN1115	
インテンシブ中国語Ⅴ	3		1	CHN2109	
インテンシブ中国語Ⅵ	3		1	CHN2110	
インテンシブ中国語Ⅶ	3		1	CHN2111	
インテンシブ中国語Ⅷ	3		1	CHN2112	
中国語発音実習Ⅰ	1		1	CHN1116	
中国語発音実習Ⅱ	1		1	CHN1117	
ビジネス中国語Ⅰ	5		2	CHN3100	
ビジネス中国語Ⅱ	5		2	CHN3101	
中国語通訳法Ⅰ	3		2	CHN3102	
中国語通訳法Ⅱ	3		2	CHN3103	選択必修
中国語翻訳法Ⅰ	3		2	CHN3104	4単位以上
中国語翻訳法Ⅱ	3		2	CHN3105	
中国語演習Ⅰ	5		2	CHN3106	
中国語演習Ⅱ	5		2	CHN3107	
中国語演習Ⅲ	5		2	CHN3108	
中国語演習Ⅳ	5		2	CHN3109	
日中通訳・翻訳演習Ⅰ	5		2	CHN3110	
日中通訳・翻訳演習Ⅱ	5		2	CHN3111	
日中通訳・翻訳演習Ⅲ	5		2	CHN3112	
日中通訳・翻訳演習Ⅳ	5		2	CHN3113	
中国語学概論	3	2		CHN2113	
中国語文法論	3	2		CHN2114	
中国語音声学	5		2	CHN3114	
中国文学史Ⅰ	3		2	CHN2115	
中国文学史Ⅱ	3		2	CHN2116	
日中比較文化論Ⅰ	3	2		CHN2117	
日中比較文化論Ⅱ	3	2		CHN2118	

アジア政治論	5		2	ENG3120	
アジア経済論	5		2	ENG3121	
中国経済概論	5		2	CHN3115	
中国語翻訳ワークショップ	5		2	CHN3116	
認知言語学	5		2	ENG3134	
中国語ビジネス コミュニケーション演習Ⅰ	5		2	CHN3117	
中国語ビジネス コミュニケーション演習Ⅱ	5		2	CHN3118	
ゼミナールⅠ	5	2		GEN3104	
ゼミナールⅡ	5	2		GEN3105	
ゼミナールⅢ	7	2		GEN3106	
卒業論文・課題指導	7･8		4	GEH3102	

⑥　関連科目

授業科目	学期次	単位数		科目 ナンバリング	備考
		必修	選択		
他学部の設置課目					

観光交流文化学科

① 外国語科目Ａ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
英語Ⅰ	1	1		ENG1100	留学生等本学が指定する学生は日本語６単位選択必修
英語Ⅱ	1	1		ENG1101	
英語Ⅲ	1	1		ENG1102	
英語Ⅳ	1	1		ENG1103	
英語Ⅴ	3	1		ENG2100	
英語Ⅵ	3	1		ENG2101	
英語Ⅶ	3	1		ENG2102	
英語Ⅷ	3	1		ENG2103	
英語文法Ⅰ	1		1	ENG1104	
英語文法Ⅱ	1		1	ENG1105	
英語作文Ⅰ	3		1	ENG2104	
英語作文Ⅱ	3		1	ENG2105	
実用英語Ⅰ	1	1		ENG1106	
実用英語Ⅱ	1	1		ENG1107	
実用英語Ⅲ	3	1		ENG2106	
実用英語Ⅳ	3	1		ENG2107	
実用英語演習Ⅰ	1	1		ENG1108	
実用英語演習Ⅱ	1	1		ENG1109	
中国語Ⅰ	1	1		CHN1100	
中国語Ⅱ	1	1		CHN1101	
中国語Ⅲ	1	1		CHN1102	
中国語Ⅳ	1	1		CHN1103	
中国語Ⅴ	3	1		CHN2100	
中国語Ⅵ	3	1		CHN2101	
日本語Ⅰ	1		1	JPN1100	
日本語Ⅱ	1		1	JPN1101	
日本語Ⅲ	1		1	JPN1102	
日本語Ⅳ	1		1	JPN1103	
日本語Ⅴ	1		1	JPN1104	
日本語Ⅵ	1		1	JPN1105	

日本語Ⅶ	1		1	JPN1106	
日本語Ⅷ	1		1	JPN1107	

② 外国語科目Ｂ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
目的別英語演習Ⅰ	3		2	ENG2108	
目的別英語演習Ⅱ	3		2	ENG2109	
目的別英語演習Ⅲ	3		2	ENG2110	
目的別英語演習Ⅳ	3		2	ENG2111	
目的別英語演習Ⅴ	3		2	ENG2112	
目的別英語演習Ⅵ	3		2	ENG2113	
目的別英語演習Ⅶ	3		2	ENG2114	
目的別中国語演習Ⅰ	3		2	CHN2104	
目的別中国語演習Ⅱ	3		2	CHN2105	
目的別中国語演習Ⅲ	3		2	CHN2106	
目的別中国語演習Ⅳ	3		2	CHN2107	
目的別中国語演習Ⅴ	3		2	CHN2108	
韓国語Ⅰ	3		2	KOR2100	
韓国語Ⅱ	3		2	KOR2101	
韓国語Ⅲ	5		2	KOR3100	
韓国語Ⅳ	5		2	KOR3101	
ドイツ語Ⅰ	3		2	GER2100	
ドイツ語Ⅱ	3		2	GER2101	
ドイツ語Ⅲ	5		2	GER3100	
ドイツ語Ⅳ	5		2	GER3101	
フランス語Ⅰ	3		2	FRN2100	
フランス語Ⅱ	3		2	FRN2101	
フランス語Ⅲ	5		2	FRN3100	
フランス語Ⅳ	5		2	FRN3101	
スペイン語Ⅰ	3		2	SPN2100	
スペイン語Ⅱ	3		2	SPN2101	
スペイン語Ⅲ	5		2	SPN3100	
スペイン語Ⅳ	5		2	SPN3101	
口語英語Ⅰ	1		1	ENG1110	
口語英語Ⅱ	1		1	ENG1111	
口語英語Ⅲ	1		1	ENG1112	
口語英語Ⅳ	1		1	ENG1113	

口語英語Ⅴ	1		1	ENG1114	
口語英語Ⅵ	1		1	ENG1115	
口語英語Ⅶ	1		1	ENG1116	
口語英語Ⅷ	1		1	ENG1117	
口語中国語Ⅰ	1		1	CHN1104	
口語中国語Ⅱ	1		1	CHN1105	
口語中国語Ⅲ	1		1	CHN1106	
口語中国語Ⅳ	1		1	CHN1107	
口語中国語Ⅴ	1		1	CHN1108	
口語中国語Ⅵ	1		1	CHN1109	
口語中国語Ⅶ	1		1	CHN1110	
口語中国語Ⅷ	1		1	CHN1111	

③　基盤教育科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
大学入門Ⅰ	1	1		GEN1100	
大学入門Ⅱ	1	1		GEN1101	
日本語表現実習Ⅰ	1	1		GEN1102	
日本語表現実習Ⅱ	1	1		GEN1103	
グローバル コミュニケーション論	1	2		GEN1104	
グローバル人材論	1	2		GEN1105	
日本文化論	3	2		GEN2100	
ホスピタリティ・ コミュニケーション	1	1		GEN1106	
地域と大学	1	2		GEN1107	
キャリアデザインⅠ	3	2		GEN2101	
キャリアデザインⅡ	3	2		GEN2102	
キャリアデザインⅢ	5	2		GEN3100	
キャリアデザインⅣ	5	2		GEN3101	
キャリアデザインⅤ	5	2		GEN3102	
キャリアデザインⅥ	5	2		GEN3103	
キャリアデザイン演習	7		2	GEH3100	
フィールドスタディⅠ	1		2	GEH1100	
フィールドスタディⅡ	1		2	GEH1101	
フィールドスタディⅢ	1		2	GEH1102	選択必修 2単位以上
フィールドスタディⅣ	1		2	GEH1103	
フィールドスタディⅤ	1		2	GEH1104	
インターンシップⅠ	3		1	GEH2100	
インターンシップⅡ	3		1	GEH2101	
インターンシップⅢ	5		1	GEH3101	

④　教養科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
異文化コミュニケーション	1		2	GEH1105	ことばと文化
ことばと文化	1		2	GEH1106	
ことばと社会	1		2	GEH1107	
言語の歴史(英)	1		2	GEH1108	
言語の歴史(中)	1		2	GEH1109	
言語の歴史(日)	1		2	GEH1110	
英語文学Ⅰ	1		2	GEH1139	
英語文学Ⅱ	1		2	GEH1140	
アジアの文学・文化(日)	1		2	GEH1113	
アジアの文学・文化(中)	1		2	GEH1114	
アジアの文学・文化(韓)	1		2	GEH1115	
グローバル社会と国際協力	1		2	GEH1116	グローバル社会と地域
ダイバーシティ入門	1		2	GEH1117	
日本と世界の近現代史	1		2	GEH1118	
生活と法	1		2	GEH1119	
日本国憲法	1		2	GEH1120	
社会学	1		2	GEH1121	
ミクロ経済学	1		2	GEH1122	
マクロ経済学	1		2	GEH1123	
統計学	1		2	GES1100	
観光学入門	1		2	TRM1100	
マーケティング入門	1		2	TRM1101	
ホスピタリティ入門	1		2	TRM1102	
アジアン・ホスピタリティ	1		2	TRM1103	
人文地理学	1		2	GEH1124	
自然地理学	1		2	GEH1125	

地域圏研究Ⅰ	1		2	GEH1126	
地域圏研究Ⅱ	1		2	GEH1127	
地域圏研究Ⅲ	1		2	GEH1128	
地域圏研究Ⅳ	1		2	GEH1129	
地域圏研究Ⅴ	1		2	GEH1130	
地域圏研究Ⅵ	1		2	GEH1131	
哲学	1		2	GEH1132	人間と健康
倫理学	1		2	GEH1133	
心理学	1		2	GEH1134	
宗教学	1		2	GEH1135	
健康科学Ⅰ	1		2	GES1101	
健康科学Ⅱ	1		2	GES1102	
体育理論	1		1	GEH1136	
体育実技	1		1	GEH1137	
ファシリテーション論	1		2	TRM1104	
日本語学概論	1		2	JPN1108	日本語教育
日本語教育概論	1		2	JPN1109	
日本語学特論Ⅰ	1		2	JPN1110	
日本語学特論Ⅱ	1		2	JPN1111	
日本語学特論Ⅲ	1		2	JPN1112	
日本語学特論Ⅳ	1		2	JPN1113	
日本語教育学特論Ⅰ	1		2	JPN1114	
日本語教育学特論Ⅱ	1		2	JPN1115	
日本語教育学特論Ⅲ	1		2	JPN1116	
日本語教育学特論Ⅳ	1		2	JPN1117	
日本語授業の実際Ⅰ	1		2	JPN1118	
日本語授業の実際Ⅱ	1		2	JPN1119	
日本語教育実習Ⅰ	3		1	JPN2100	
日本語教育実習Ⅱ	3		1	JPN2101	
日本文化演習Ⅰ	1		2	JPN1120	
日本文化演習Ⅱ	1		2	JPN1121	

⑤　専門科目Ａ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
国際観光論	3		2	TRM2100	
交流文化論	3		2	TRM2101	
サービス文化論	3		2	TRM2102	
観光心理学	3		2	TRM2103	
観光人類学	3		2	TRM2104	
観光地理学	3		2	TRM2105	
観光保健論	3		2	TRM2106	
福祉観光論	3		2	TRM2107	
観光マーケティング論	3		2	TRM2108	
観光英語Ⅰ	5	2		TRM3100	
観光英語Ⅱ	5	2		TRM3101	
観光英語Ⅲ	5		2	TRM3102	
観光英語Ⅳ	5		2	TRM3103	
観光中国語Ⅰ	5		2	TRM3104	
観光中国語Ⅱ	5		2	TRM3105	
観光手話基礎	3		2	TRM2109	
観光手話	3		2	TRM2110	
プロジェクト演習Ⅰ	3	2		TRM2111	
プロジェクト演習Ⅱ	3		2	TRM2112	
観光基礎演習Ⅰ	3	2		TRM2113	
観光基礎演習Ⅱ	3	2		TRM2114	
ゼミナールⅠ	5	2		GEN3104	
ゼミナールⅡ	5	2		GEN3105	
ゼミナールⅢ	7	2		GEN3106	
卒業論文・課題指導	7･8		4	GEH3102	

⑥　専門科目Ｂ

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
サービス産業論	1		2	TRM1105	
基礎簿記Ⅰ	3		2	TRM2115	
基礎簿記Ⅱ	3		2	TRM2116	
旅行産業論	3		2	TRM2117	
旅行サービス論	3		2	TRM2118	
ホスピタリティマネジメント論	3		2	TRM2119	
航空産業論	3		2	TRM2120	
航空サービス論	3		2	TRM2121	
宿泊産業論	3		2	TRM2122	
宿泊サービス論	3		2	TRM2123	
フードビジネス論	3		2	TRM2124	
フードビジネスサービス論	3		2	TRM2125	
観光政策・行政論	5		2	TRM3106	
風景・景観論	5		2	TRM3107	
イベント・コンベンション論	5		2	TRM3108	
エンターテインメント産業論	5		2	TRM3109	
ブライダルコーディネート論	5		2	TRM3110	
世界遺産観光論	5		2	TRM3111	
旅行医学概論	5		2	TRM3112	
観光リスクマネジメント論	5		2	TRM3113	
観光交流文化特論Ⅰ	5		2	TRM3114	
観光交流文化特論Ⅱ	5		2	TRM3115	
観光交流文化特論Ⅲ	5		2	TRM3116	
観光交流文化特論Ⅳ	5		2	TRM3117	

⑦　関連科目

授業科目	学期次	単位数		科目ナンバリング	備考
		必修	選択		
他学部の設置課目					

Ⅸ　副専攻プログラム

副専攻プログラム：グローバル教養(英語圏)

○卒業までに下の左側の①②の要件を満たすと「グローバル教養 basic(英語圏)」の修了証が発行されます。（18 単位以上）
◎卒業までに①②に加え、右側の③④⑤の要件を満たすと「グローバル教養 advanced(英語圏)」の修了証が発行されます。(26 単位以上)

≪要件≫
①…下表の分類Ａ・Ｂ・Ｃからそれぞれ 6 単位以上、計 18 単位以上取得
②…TOEIC 500 点以上(あるいは、TOEFLiBT 52 点以上、IELTS 4.5 点以上)

分類	科　目　名	学科	単位
A	グローバルコミュニケーション論	共通	2
	異文化コミュニケーション		2
	ことばと文化		2
	ことばと社会		2
B	グローバル社会と国際協力	共通	2
	ダイバーシティ入門		2
	地域圏研究Ⅲ(北米)		2
	地域圏研究Ⅳ(英国)		2
	地域圏研究Ⅴ(欧州)		2
C	グローバル人材論	共通	2
	哲学		2
	倫理学		2
	宗教学		2

≪要件≫
③…分類Ｄから 4 単位以上を含む、下表の科目から計 8 単位以上取得（分類Ｆは 2 単位を上限として要件に数える）
④…留学・海外研修または海外インターシップ・語学ボランティア等の認定された学外活動への参加
⑤…TOEIC 800 点以上(あるいは、TOEFLiBT 80 点以上、IELTS 6 点以上)

分類	科　目　名	学科	単位
D	目的別英語演習Ⅰ	英観	2
	目的別英語演習Ⅱ		2
	目的別英語演習Ⅲ		2
	目的別英語演習Ⅳ		2
	目的別英語演習Ⅴ		2
	目的別英語演習Ⅵ		2
	目的別英語演習Ⅶ		2
E	言語の歴史(英)	共通	2
	英語文学Ⅰ		2
	英語文学Ⅱ		2
	日本と世界の近現代史		2
F	韓国語Ⅳ	共通	2
	ドイツ語Ⅳ		2
	フランス語Ⅳ		2
	スペイン語Ⅳ		2

外国語学部の学生は「卓抜した語学力」を身につけることはもちろんですが、その語学力を活かす「教養」を身につける必要もあります。スマートでタフに活躍できるグローバル人材を目指しましょう。

副専攻プログラム：グローバル教養(アジア圏)

○卒業までに下の左側の①②の要件を満たすと「グローバル教養 basic(アジア圏)」の修了証が発行されます。(18 単位以上)
◎卒業までに①②に加え右側の③④⑤の要件を満たすと「グローバル教養 advanced(アジア圏)」の修了証が発行されます。(26 単位以上)

≪要件≫
①…下表の分類Aから 8 単位以上、分類Bから 8 単位以上、合計 18 単位以上取得(「言語の歴史」「アジアの文学・文化」の科目群は 6 単位を上限、「地域圏研究」群は 4 単位を上限として要件に数える)
②…中国語検定試験 4 級(あるいはＨＳK2 級)以上

分類	科　目　名	学科	単位
A	グローバルコミュニケーション論	共通	2
	ことばと文化		2
	ことばと社会		2
	日本語教育学特論Ⅳ <異文化理解と言語行動>		2
	日本文化論		2
	言語の歴史(日)		2
	言語の歴史(中)		2
	アジアの文学・文化(日)		2
	アジアの文学・文化(中)		2
	アジアの文学・文化(韓)		2
B	グローバル社会と国際協力	共通	2
	ダイバーシティ入門		2
	グローバル人材論		2
	日本と世界の近現代史		2
	アジアン・ホスピタリティ		2
	地域圏研究Ⅰ(中国)		2
	地域圏研究Ⅱ(韓国)		2
	地域圏研究Ⅵ(日本)		2
	日本語教育学特論Ⅱ <日本語教育の歴史>		2
C	目的別中国語演習Ⅰ	共通	2

≪要件≫
③…分類Dから 2 単位以上を含む、計 8 単位以上取得(分類Ｆは 2 単位を上限として要件に数える)
④…留学・海外研修または海外インターンシップ・語学ボランティア等の認定された学外活動への参加
⑤…中国語検定試験 2 級(あるいはＨＳK5 級)以上,または、通訳案内士試験(中国語)合格

分類	科　目　名	学科	単位
D	目的別中国語演習Ⅱ	共通	2
	目的別中国語演習Ⅲ		2
	目的別中国語演習Ⅳ		2
	目的別中国語演習Ⅴ		2
E	中国文学史Ⅰ	中	2
	中国文学史Ⅱ		2
	日中比較文化論Ⅰ		2
	日中比較文化論Ⅱ		2
	日本文化演習Ⅱ(日中)	共通	2
	アジア政治論	英ビ・中	2
	アジア経済論		2
F	韓国語Ⅳ	共通	2
	ドイツ語Ⅳ		2
	フランス語Ⅳ		2
	スペイン語Ⅳ		2

地理的な近さから日本とアジア圏の国々は歴史的に深い関係にあります。特に近年では，アジア圏の国々は日本人にとっての魅力的な観光地となっているだけではなく，多くの日本企業がアジア諸国に進出し支社や工場を置いてます。また，アジア諸国からの日本への旅行者も年々増加しています。このように，ビジネスや文化交流の場において，アジア諸国の重要性はますます高まっています。ただ，一口にアジアといっても，その言語・文化・歴史は実に多種多様です。本副専攻を受講してアジアの多様性について知識や理解を深めましょう。将来アジア圏で活躍したい人や観光業に興味のある人に薦めます。

副専攻プログラム：グローバル教養(観光交流文化)

○卒業までに下の左側の①②の要件を満たすと「グローバル教養 basic(観光交流文化)」の修了証が発行されます。(18 単位以上)
◎卒業までに①②に加え、右側の③④⑤の要件を満たすと「グローバル教養 advanced(観光交流文化)」の修了証が発行されます。(26 単位以上)

≪要件≫
①…下表の分類Aから計 18 単位以上取得
②…TOEIC 500 点以上(あるいは、TOEFLiBT 52 点以上、IELTS 4.5 点以上)または中国語検定試験 4 級(あるいはＨＳK2 級)以上

分類	科　目　名	学科	単位
A	グローバルコミュニケーション論	共通	2
	異文化コミュニケーション		2
	ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		1
	グローバル社会と国際協力		2
	ダイバーシティ入門		2
	観光学入門		2
	ホスピタリティ入門		2
	アジアン・ホスピタリティ		2
	マーケティング入門		2
	ファシリテーション論		2
	グローバル人材論		2
	地域と大学		2

≪要件≫
③…分類Cから 4 単位以上を含む、計 8 単位以上取得(分類Dは 2 単位を上限として要件に数える)
④…留学・海外研修または海外インターンシップ・語学ボランティア等の認定された学外活動への参加
⑤…TOEIC 730 点以上(あるいは、TOEFLiBT69 点以上、IELTS 5.5 点以上)、中国語検定試験 3 級(あるいはＨＳK4 級)以上

分類	科　目　名	学科	単位
B	目的別英語演習Ⅰ	共通	2
	目的別英語演習Ⅱ		2
	目的別英語演習Ⅲ		2
	目的別英語演習Ⅳ		2
	目的別英語演習Ⅴ		2
	目的別英語演習Ⅵ		2
	目的別英語演習Ⅶ		2
	目的別中国語演習Ⅰ	共通	2
	目的別中国語演習Ⅱ		2
	目的別中国語演習Ⅲ		2
	目的別中国語演習Ⅳ		2
	目的別中国語演習Ⅴ		2
C	交流文化論	共通	2
	サービス文化論		2
	ホスピタリティマネジメント論		2
	観光保健論		2
D	韓国語Ⅳ	共通	2
	ドイツ語Ⅳ		2
	フランス語Ⅳ		2
	スペイン語Ⅳ		2

世界的に観光を通じた人々の往来はさらに盛んになっており、重要な社会現象となっています。また、観光関連産業に従事する人々の数も増加を続けています。このプログラムは、観光を取り巻く状況を理解することを目的とし、「観光の全体像を理解する」「観光に関連する社会現象を理解する」「観光の現場で必要とされる力を身につける」という３点から構成されています。また、観光関連産業での活躍を考える上では、高度な語学力の涵養も重要となっていることから、語学力も要件として含まれています。

副専攻プログラム：日本語教育

○卒業までに下の①と③の要件を満たすと「日本語教育 basic」の修了証が発行されます。
（18 単位以上）
◎卒業までに下の②と④の要件を満たすと「日本語教育 advanced」の修了証が発行されます。
（26 単位以上）

≪要件≫
①…下表の分類A・Bから 12 単位以上取得
（うち分類Bから 2 単位以上を取得）
②…下表の分類A・Bから 16 単位以上取得
（うち分類Bから 4 単位以上を取得）

分類	科　目　名	学科	単位
A	日本語学概論	共通	2
	言語の歴史（日）		2
	日本語学特論Ⅰ <日本語文法入門>		2
	日本語学特論Ⅱ <日本語の文字表記>		2
	日本語学特論Ⅲ <日本語音声学>		2
	日本語学特論Ⅳ <意味とことばのネットワーク>		2
	日本語教育概論	共通	2
	日本語教育学特論Ⅰ <教授法のいろいろ>		2
	日本語教育学特論Ⅱ <日本語教育の歴史>		2
	日本語教育学特論Ⅲ <言語習得と発達>		2
	日本語教育学特論Ⅳ <異文化理解と言語行動>		2
B	日本語授業の実際Ⅰ <教具・教材・クラス活動>	共通	2
	日本語授業の実際Ⅱ <コースデザイン・評価>		2
	日本語教育実習Ⅰ		1
	日本語教育実習Ⅱ		1

日本語教師は、日本語以外を母語とする人に日本語を教える仕事です。国外はもちろん日本国内でも日本語を必要とする人たちが日本語学校や地域のボランティア教室、小中学校の補習クラスなどで学んでいます。このプログラムは、職業として日本語教師を目指す人だけでなく、ボランティアで日本語を教えたい人、海外で生活したり、仕事をしたい人、地方自治体や国際交流団体で日本語教育に関わる仕事をしてみたい人、日本語や日本文化、語学教育について研究してみたい人に薦めます。

≪要件≫
③…下表の分類C・Dから 6 単位以上取得
④…下表の分類C・Dから 10 単位以上取得
（③④いずれも、分類Dは 2 単位を上限として要件に数える）

分類	科　目　名	学科	単位
C	ことばと社会	共通	2
	認知言語学	英教・中	2
	社会言語学	英教	2
	ことばと文化	共通	2
	異文化コミュニケーション		2
	アジアの文学・文化(日)		2
	日本文化論		2
	異文化交流	英教	2
	日中比較文化論Ⅰ	中	2
	日中比較文化論Ⅱ		2
	日本文化演習Ⅰ<日英>	共通	2
	日本文化演習Ⅱ<日中>		2
	日本と世界の近現代史	共通	2
	地域圏研究Ⅵ(日本)		2
	社会学	共通	2
	グローバル社会と国際協力		2
	ダイバーシティ入門		2
	ファシリテーション論		2
	観光交流文化特論Ⅳ	観	2
D	韓国語Ⅳ	共通	2
	ドイツ語Ⅳ		2
	フランス語Ⅳ		2
	スペイン語Ⅳ		2

副専攻プログラム：児童英語教育

○卒業までに下の左側の①の要件を満たすと「児童英語教育 basic」の修了証が発行されます。
（18 単位以上）
◎卒業までに①に加え右側の②の要件を満たすと「児童英語教育 advanced」の修了証が発行されます。
（18 単位以上＋J-SHINE 申請）

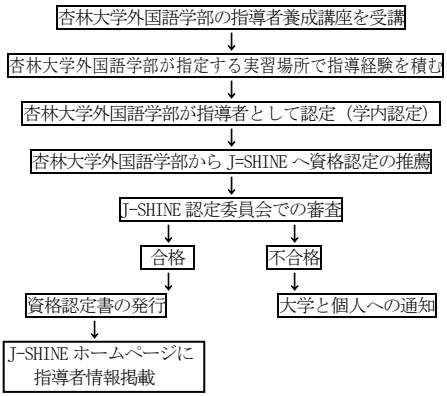
≪要件≫
①…下表の分類Aの全科目 7 単位を含め、18 単位以上取得

分類	科　目　名	学科	単位
A	児童英語教育論Ⅰ	共通	2
	児童英語教育論Ⅱ		2
	児童英語教育教材研究		2
	児童英語教育実習		1
B	英語教育演習Ⅰ	共通	2
	英語教育演習Ⅱ		2
	認知言語学		2
	日本語教育学特論Ⅲ <言語習得と発達>		2
	英語文学Ⅰ		2
	英語文学Ⅱ		2
	心理学		2
	健康科学Ⅰ		2
	健康科学Ⅱ		2
	(奨励規程) TOEIC 試験 500 点以上 (※取得の場合は 1 単位換算)	共通	(1)

≪要件≫
②…J-SHINE 申請(指導時間 50 時間以上の要件)

分類	要　件	学科	単位
C	J-SHINE 資格申請	英教	—
	スクールインターンシップ		—

＜J-SHINE 資格申請の流れ＞



小学校英語指導者認定協議会（略称:J-SHINE）は、「小学校での英語活動・英語教育を行う上で、必要な知識と技能を有し、児童英語教育指導者として十分な能力を有する」と認定することで「小学校英語指導者」資格を発行しています（小学校の教育職員免許状（教員免許）とは別ものであるため、J-SHINE の資格を取得したからといって小学校の教員になれるわけではないことに注意）。

杏林大学外国語学部は J-SHINE 認定の登録団体であるため、ⓐ杏林大学外国語学部が主催する「指導者養成講座」（児童英語教育論Ⅰ　児童英語教育論Ⅱ　児童英語教育教材研究　児童英語教育実習）を受講し、ⓑ「50 時間以上の指導経験」（本学が指定する実習場所でのスクールインターンシップ）を積むことで、資格認定の基準を満たすことになります。毎年 4 月に開催する説明会で資料を配布しますので、希望者は必ず参加してください。

なお、①②を満たしていなくても本副専攻プログラムとは独立して「J-SHINE 資格申請」は可能です。その場合「児童英語教育 advanced」の修了証（上級）は発行されませんのでご注意ください。

副専攻プログラム：多文化共生

○卒業までに下の左側の①の要件を満たすと「多文化共生 basic」の修了証が発行されます。(18 単位以上)
◎卒業までに①に加え、右側の②③の要件を満たすと「多文化共生 advanced」の修了証が発行されます。(26 単位以上)

≪要件≫
①…分類Bから 4 単位以上含む、下表の分類A・Bから計 18 単位以上取得（「地域圏研究」「アジアの文学・文化」群は、6 単位を上限として要件に数える）

分類	科　目　名	学科	単位
A	ことばと文化	共通	2
	ことばと社会		2
	日本文化演習Ⅰ(日英)		2
	日本文化演習Ⅱ(日中)		2
	日本語教育学特論Ⅳ 〈異文化理解と言語行動〉		2
	日本と世界の近現代史		2
	日本語教育学特論Ⅱ 〈日本語教育の歴史〉	共通	2
	哲学		2
	生活と法		2
	宗教学		2
	地域圏研究Ⅰ(中国)		2
	地域圏研究Ⅱ(韓国)		2
	地域圏研究Ⅲ(北米)		2
	地域圏研究Ⅳ(英国)		2
	地域圏研究Ⅴ(欧州)		2
	地域圏研究Ⅵ(日本)		2
	アジアの文学・文化(中)		2
	アジアの文学・文化(韓)		2
	アジアの文学・文化(日)		2
B	社会学	共通	2
	アジアン・ホスピタリティ		2
	日本国憲法		2
	倫理学		2
	人文地理学		2
	異文化コミュニケーション		2
	ファシリテーション論		2
	グローバル社会と国際協力		2
	グローバル人材論		2
	ダイバーシティ入門		2

≪要件≫
②…下表の分類C・Dから 4 単位以上履修（分類Dは 2 単位を上限として要件に数える）
③…留学･海外研修または海外インターンシップ、語学ボランティア･地域ボランティア等の認定された学外活動への参加

分類	科　目　名	学科	単位
C	異文化交流	英教	2
	認知言語学	英教･中	2
	社会言語学	英教	2
	アメリカ政治論	英ビ	2
	ヨーロッパ政治論	英ビ	2
	アジア政治論	英ビ中	2
	日中比較文化論Ⅰ	中	2
	日中比較文化論Ⅱ		2
	観光手話基礎	観	2
	観光手話		2
	観光交流文化特論Ⅲ		2
	観光交流文化特論Ⅳ		2
D	韓国語Ⅳ	共通	2
	ドイツ語Ⅳ		2
	フランス語Ⅳ		2
	スペイン語Ⅳ		2

グローバル社会では多様な文化背景や資質を持つ人々が一緒に働き、暮らす状況が現れます。多文化共生について学んで、習慣や考え方やことばの違いなどからおきる職場や生活の場での身近な問題に向き合い、多様性を理解し、人々の間の調整役となったり、問題の解決策をさがしたりする人材(ファシリテーター)を目指してください。

X　規程

○杏林大学外国語学部履修規程

制定　昭和６３年　４月　１日
改正　平成　５年　４月　１日　平成　５年１１月１０日
平成　８年１１月１８日　平成　９年１１月１７日
平成１１年　２月１５日　平成１１年１１月１５日
平成１２年１２月１８日　平成１８年　３月１３日
平成２０年　２月１８日　平成２２年　１月１８日
平成２３年　２月２１日　平成２５年　２月１８日
平成２３年　２月２１日　平成２５年　２月１８日
平成２６年　２月１７日　平成２７年　２月１２日
平成２８年　２月１５日　平成２８年　３月１４日
平成３０年　３月１９日

（意義）

第１条　外国語学部の履修は、杏林大学学則（以下「学則」という。）の定めによるもののほか、この規程による。

（科目の履修）

第２条　授業科目の履修は、学則別表４－３（以下「別表４－３」という。）によるものとする。

２　所属コースの履修手続及び選考については別に定める。

３　外国語科目Ａの履修は、英語学科では英語８単位、英語文法２単位、英語作文２単位、実用英語４単位、実用英語演習２単位、及び中国語６単位を必修、中国語学科では英語６単位、及び中国語８単位を必修、観光交流文化学科では英語８単位、実用英語４単位、実用英語演習２単位、及び中国語６単位を必修とする。外国人留学生は英語、中国語いずれかの代わりに、日本語を必修とする。

４　必修科目及び選択必修科目は、英語学科英語ビジネスコミュニケーションコースでは、外国語科目Ａを含め４６科目６３単位、英語学科英語教育コースでは、外国語科目Ａを含め４８科目６７単位、中国語学科では、外国語科目Ａを含め３８科目５７単位、観光交流文化学科では、外国語科目Ａを含め４６科目（選択必修科目１単位を含む場合は４７科目）６７単位とする。

５　他学科に設置されている専門科目の履修については、在学年限を通じて２０単位を限度とし、当該授業科目担当教員及び教務委員会の承認を得なければならない。

６　前項および大学コンソーシアム八王子を通じた単位互換により修得した単位は、関連科目の単位として認める。

７　各学期に履修できる単位の上限を２２単位とする。ただし、自由科目等については、この限りではない。

８　転・編入学生については、転・編入学時に６２単位を上限に本学の卒業単位として認定する。転・編入学生の入学後の履修については、以下のように定める。

（１）第５学期以降に配当されている必修科目を履修する。ただし、選択必修科目については、第４学期以前に配当されている科目を履修できるものとする。

（２）転・編入学以前の学習状況により、必要な科目の学習を特別に課する場合がある。

９　日本語教員養成課程の科目の名称及び単位数は、別表に掲げるとおりとする。日本語教員養成課程の科目のうち所定の単位を修得した者に修了証書を与える。

（履修申告手続）

第３条　履修科目は、各学期始めの所定の期日までに登録を行うものとする。履修申告の方法等については別に定める。
２　前項により登録した履修科目の変更、取り消し及び追加は認めない。ただし、履修登録変更期間の終了後、所定の期間に限り、科目履修を中止することができる。
３　履修申告により登録していない科目は、当該科目の履修及び試験の受験を認めない。
（試験）
第４条　履修科目の単位を修得するためには、その科目の総合判定に合格しなければならない。この総合判定は、平常点のみによる場合と平常点と試験による場合とがある。各授業科目における総合判定は、科目担当者が科目の性質や学習効率などを考慮して決定する。
２　前項の平常点とは、平常授業を通じて行われる評価（小テストなどを含む。）であり、試験とは、定期試験、追試験及び再試験をさす。
３　定期試験は、学期末の指定期間に行う。（一部の科目については、指定期間の約１週間前に行う場合がある。）ただし、科目の履修期間が学期に一致しない場合（集中講義など）は、授業実施期間中に行うことがある。
４　追試験は、病気その他やむを得ない事由により定期試験を受けることができなかった者に対して、教授会の承認を経て行う。その実施については別に定める。
５　再試験は、教授会の承認を得た者に限り、第４学期及び最終学期に行う。その実施については別に定める。
（学業成績）
第５条　履修科目の総合判定は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの５段階の評語で示される。
２　前項の各評語は、総合判定を１００点とした場合、Ｓが９０点以上、Ａが８０点以上９０点未満、Ｂが７０点以上８０点未満、Ｃが６０点以上７０点未満、Ｄが６０点未満若しくは定期試験欠席を意味し、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃを合格、Ｄを不合格とする。
３　出席不良等により判定不能な場合の評語はＥとする。
４　単位認定を受けた科目の評語はＮとする。
５　履修を中止した科目の評語はＷとする。
（ＧＰＡ）
第５条の２　前条の成績の評価（履修中止科目、自由科目及び単位認定科目は除く）に対して次項によるグレードポイント（以下「ＧＰ」という。）を設定し、下記の計算式によりＧＰの平均値であるグレードポイントアベレージ（以下「ＧＰＡ」という。）を算出する。
　ＧＰＡ＝{(評価を受けた科目のＧＰ)×(当該科目の単位数)}の累計／（履修登録の単位数の合計）の累計
２　成績の評価に対するＧＰは、Ｓが４点、Ａが３点、Ｂが２点、Ｃが１点、Ｄ、Ｅが０点とする。
（不正行為）
第６条　試験中に不正行為があったときは、当該科目を不合格とする。
２　前項の不正行為については、教授会の決定により、さらに他の履修科目を減点若しくは不合格とし、必要に応じ学則第４３条の規定に定める懲戒を行うことがある。
３　試験中の不正行為の取扱いについては別に定める。
（進級判定）
第７条　進級の認定は、教務委員会の議を経て、教授会において審議し、教授会において行う。
２　各学期の修得単位数が１単位以上であれば次の学期に進級できる。ただし、第５学期への進級には、卒業に必要な総単位数のうち、６２単位以上を修得していなければならない。
３　履修学期が指定されている必修科目の単位を修得しないで進級した者は、進級学期においてその未修得科目の単位を修得しなければならない。

４　外国の教育機関への留学期間中は進級とする。ただし、留学許可書の留学期間終了後から１ヶ月以内に留学先教育機関が発行した成績証明書等を提出しなければならない。

（留学期）

第８条　前条により進級の認定がされなかった者は留学期とし、原級に留めるものとする。

２　留学期者と留学期経験者の科目の履修については、当該授業科目担当教員及び教務委員会協議のうえ、次学期の科目の履修を認めることがある。

（卒業判定）

第９条　卒業の認定は、第８学期において、教務委員会の議を経て、教授会において審議し、これを行う。

（教授会決定）

第１０条　外国語学部の履修について、この規程に定めのない事項は、教授会の定めによる。

附　則

１　この規程は、平成３０年 ４月 １日から施行する。

別表（第２条第９項関係）

日本語教員養成課程科目

	科　　目	単位数
日本語学／日本語教育学科目	日本語学概論	2
	言語の歴史(日)	2
	日本語学特論Ⅰ	2
	日本語学特論Ⅱ	2
	日本語学特論Ⅲ	2
	日本語学特論Ⅳ	2
	日本語教育概論	2
	日本語教育学特論Ⅰ	2
	日本語教育学特論Ⅱ	2
	日本語教育学特論Ⅲ	2
	日本語教育学特論Ⅳ	2
実技演習科目	日本語授業の実際Ⅰ	2
	日本語授業の実際Ⅱ	2
	日本語教育実習Ⅰ	1
	日本語教育実習Ⅱ	1

	科　　目	単位数
言語／文化等関連科目	ことばと社会	2
	社会言語学	2
	認知言語学	2
	異文化コミュニケーション	2
	ことばと文化	2
	アジアの文学・文化(日)	2
	日本文化論	2
	比較文化と異文化理解	2
	日中比較文化論Ⅰ	2
	日中比較文化論Ⅱ	2
	日本文化演習Ⅰ	2
	日本文化演習Ⅱ	2
	日本と世界の近現代史	2
	地域圏研究Ⅵ	2
	社会学	2
	グローバル社会と国際協力	2
	ダイバーシティ入門	2
	ファシリテーション論	2
	観光交流文化特論Ⅳ	2
第３語学科目	韓国語Ⅳ	2
	ドイツ語Ⅳ	2
	フランス語Ⅳ	2
	スペイン語Ⅳ	2

備考　上記の表より、１８単位以上(日本語学／日本語教育学科目より１０単位以上、実技演習科目２単位以上、言語／文化等関連科目６単位以上、ただし、第３語学科目を２単位以上取得の場合、言語／文化等関連科目４単位以上とする。)を履修、上級は２６単位以上(日本語学／日本語教育学科目より１２単位以上、実技演習科目４単位以上、言語／文化等関連科目１０単位以上、ただし、第３語学科目２単位以上取得の場合は、言語／文化等関連科目８単位以上とする。)を履修

○杏林大学外国語学部転学科規程

制定　平成１８年　３月１３日
改正　平成２７年　３月　５日

（目的）
第１条　この規程は、杏林大学学則第３４条に定める転学科に関し、外国語学部の学科相互における転学科について細部を定めることを目的とする。
（転学科の時期）
第２条　他学科に転学科を許可する時期は、第３、第４及び第５学期までの進級時とする。
（転学科の人員）
第３条　転学科を許可する人員は、第３学期から第５学期までの進級する各学科の在籍学生数を考慮し、教育に支障のない範囲においてその都度定める。
（転学科資格）
第４条　転学科を志願する者は、転学科後に当該学科の必修科目を履修することが可能である者にかぎる。
（転学科志願）
第５条　転学科を志願する者は、所定の用紙に別に定める「転学科検定料」を添えて教務課へ提出しなければならない。
（転学科試験）
第６条　転学科試験は、学期末に実施する。
２　転学科試験の出題者については、学部長よりこれを委嘱する。
３　転学科試験の受験資格、実施要領は別に定める。
（転学科の許可）
第７条　転学科の許可については、転学科試験の結果を踏まえた教務委員会の議を経て、教授会にて承認する。

附　則

１　この本規程は、平成１８年　４月　１日から施行する。
２　平成１８年４月１日以降に入学した者に適用し、それ以前の者に対しては適用しない。

附　則

１　本規程は、平成２７年４月１日から施行する。
２　平成２７年４月１日以降に入学した者に適用し、それ以前の者に対しては、なお従前の例による。

XI 教職課程、地(知)の拠点整備事業、AP プログラム（高大接続）について

1 教職課程（英語学科英語教育コース選択者のみ）

英語学科英語教育コースでは、定められた科目を修得すると、「英語」の中学校教諭・高等学校教諭の各一種免許状を取得することができます。

学校（中学校、高等学校）の教員になるためには、それぞれ該当する「教育職員免許状」（以下、「免許状」という）を取得していることが必要です。免許状は、免許法及び同法施行規則に定められた必要な単位を取得し、大学を卒業して学士の学位（基礎資格）を有する者の申請に基づいて、都道府県の教育委員会から授与されます。授与された免許状は、全国すべての都道府県及び海外の日本人学校においてその効力を有します。

教職課程とは、上記の免許法に基づいて、免許状を取得するために履修する課程のことです。

なお、教員免許状を取得しようとする場合、「教職課程」への登録が必要です。履修を希望する学生は毎学期はじめに実施される教職ガイダンスに出席したうえで、所定の手続きをしなければなりません。

詳細は別誌『教職課程ガイドブック』を参照してください。

地域を舞台とした学び

本学では文部科学省が支援した補助事業『地（知）の拠点整備事業（COC）』（2013 年度～2017 年度）、『地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC＋）』（2015 年度～2019 年度）に採択されたのを機に、大学が地方公共団体や企業等と協働して地域の課題解決に向けて主体的に行動できる人材の育成、また学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材育成のための教育カリキュラム改革を進めてきました。学生と地域の関係者の交流を通じて地域活性化に関連した活動を展開するとともに、『地域のための大学』として「地域を志向した学習」を継続していくために地域をテーマとする科目と地域住民の方々に開かれた科目の充実を図っています。

◆地域をテーマとする科目

【医学部】　（3科目）

No.	科目名称	No.	科目名称	No.	科目名称
1	地域と大学（早期体験学習Ⅰ）	2	臨床実習 (クリニカルクラークシップ)	3	救急医学実習（救急車同乗実習）

【総合政策学部】(37科目)

No.	科目名称	No.	科目名称	No.	科目名称
1	社会保障論Ⅰ	14	学際演習（地域づくり）	27	演習Ⅴ（三浦ゼミナール）
2	社会保障論Ⅱ	15	演習Ⅰ（木暮ゼミナール）	28	演習Ⅵ（三浦ゼミナール）
3	介護政策論	16	演習Ⅱ（木暮ゼミナール）	29	演習Ⅲ（岡村ゼミナール）
4	出店戦略	17	演習Ⅲ（木暮ゼミナール）	30	演習Ⅳ（岡村ゼミナール）
5	Introduction to Global Health Issues	18	演習Ⅳ（木暮ゼミナール）	31	演習Ⅴ（岡村ゼミナール）
6	医療経済学	19	演習Ⅴ（木暮ゼミナール）	32	演習Ⅵ（岡村ゼミナール）
7	健康社会学	20	演習Ⅵ（木暮ゼミナール）	33	租税法Ⅰ
8	国際政治史	21	演習Ⅲ（進邦ゼミナール）	34	租税法Ⅱ
9	比較政治学	22	演習Ⅳ（進邦ゼミナール）	35	刑法Ⅰ
10	ローカル・ガバメント論A	23	演習Ⅴ（進邦ゼミナール）	36	刑法Ⅱ
11	ローカル・ガバメント論B	24	演習Ⅵ（進邦ゼミナール）	37	生活と法[春]
12	地域と大学	25	演習Ⅲ（三浦ゼミナール）		
13	地域と大学〔S〕	26	演習Ⅳ（三浦ゼミナール）		

【外国語学部】　（31科目）

No.	科目名称	No.	科目名称	No.	科目名称
1	地域と大学①	12	韓国語Ⅰ	23	ゼミナールⅡ（古本ゼミナール）
2	地域と大学②	13	韓国語Ⅱ	24	ゼミナールⅢ（古本ゼミナール）
3	地域と大学③	14	韓国語Ⅳ	25	プロジェクト演習Ⅰ①
4	地域と大学④	15	フィールドスタディⅣ(秋・釜石)	26	プロジェクト演習Ⅰ②
5	ことばと文化	16	ゼミナールⅠ（坂本ゼミナール）	27	プロジェクト演習Ⅰ③
6	日本語学特論Ⅱ	17	ゼミナールⅡ（坂本ゼミナール）	28	プロジェクト演習Ⅰ④
7	アジアの文学・文化(韓)	18	ゼミナールⅢ（坂本ゼミナール）	29	プロジェクト演習Ⅱ
8	地域圏研究Ⅱ(韓国)	19	ゼミナールⅠ（八木橋ゼミナール）	30	日本文化論(中・靚)
9	実用英語演習Ⅰ(英・1年)	20	ゼミナールⅡ（八木橋ゼミナール）	31	日本文化論(英)
10	実用英語演習Ⅱ(英・1年)	21	ゼミナールⅢ（八木橋ゼミナール）		
11	Writing Strategies	22	ゼミナールⅠ（古本ゼミナール）		

【保健学部】　(94科目)

No.	学科	科目名称	No.	学科	科目名称	No.	学科	科目名称
1	臨床検査	公衆衛生学Ⅱ	33	臨床工学	地域と大学	65	理学療法	応用理学療法学
2	臨床検査	地域と大学	34	臨床工学	生命倫理学	66	理学療法	理学療法概論
3	臨床検査	薬理学	35	臨床工学	臨床実習	67	理学療法	見学実習
4	臨床検査	食品栄養学	36	臨床工学	医用工学概論	68	理学療法	評価実習Ⅰ
5	臨床検査	臨地実習	37	臨床工学	特別講義Ⅰ	69	理学療法	評価実習Ⅱ
6	臨床検査	社会福祉学	38	救急救命	公衆衛生学Ⅱ	70	理学療法	総合臨床実習
7	臨床検査	臨床検査基礎実習	39	救急救命	地域と大学	71	理学療法	社会福祉学
8	看護学	応用看護学実習	40	救急救命	シミュレーションⅣ	72	理学療法	小児理学療法学
9	看護学	基礎看護学実習Ⅰ	41	救急救命	臨床実習	73	作業療法	公衆衛生学Ⅰ
10	看護学	基礎看護学実習Ⅱ	42	救急救命	救急防災実習	74	作業療法	公衆衛生学Ⅱ
11	看護学	高齢者看護学実習Ⅱ	43	救急救命	救急車同乗実習	75	作業療法	地域と大学
12	看護学	小児看護学実習	44	健康福祉	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ	76	作業療法	地域ケアシステム論
13	看護学	母性看護学実習	45	健康福祉	児童福祉論	77	作業療法	老年期障害作業療法学
14	看護学	精神看護学実習	46	健康福祉	カウンセリング	78	作業療法	見学実習
15	看護学	福祉・地域と大学	47	健康福祉	食品栄養学	79	作業療法	評価実習Ⅰ
16	看護養護	福祉・地域と大学	48	健康福祉	食品製造学	80	作業療法	評価実習Ⅱ
17	看護養護	健康スポーツ科学	49	健康福祉	地域福祉論	81	作業療法	総合臨床実習
18	看護養護	栄養学(食品学を含む)	50	健康福祉	社会福祉援助技術実習	82	作業療法	作業療法学概論
19	看護養護	基礎看護学実習Ⅰ	51	健康福祉	看護学実習	83	作業療法	生命論理学
20	看護養護	基礎看護学実習Ⅱ	52	健康福祉	ボランティア活動	84	作業療法	社会福祉学
21	看護養護	ボランティア活動	53	健康福祉	地域と大学	85	作業療法	地域生活作業療法学演習
22	看護養護	小児看護学実習	54	健康福祉	社会福祉学	86	放射線	地域と大学
23	看護養護	母性看護学実習	55	健康福祉	保健栄養学	87	放射線	生命論理学
24	看護養護	在宅看護学実習	56	健康福祉	公衆衛生学Ⅱ	88	放射線	放射線治療技術学実習
25	看護養護	精神看護学実習	57	理学療法	公衆衛生学Ⅰ	89	放射線	核医学検査技術学実習
26	看護養護	老年看護学実習Ⅰ	58	理学療法	公衆衛生学Ⅱ	90	放射線	画像検査技術学実習
27	看護養護	成人看護学実習Ⅰ	59	理学療法	地域と大学	91	放射線	特別講義Ⅰ
28	看護養護	発達障害と特別支援	60	理学療法	生命倫理学	92	臨床心理	地域と大学
29	看護養護	統合看護学実習(発達障害)	61	理学療法	高齢者理学療法学	93	臨床心理	心理基礎実習
30	看護養護	発達障害と特別支援	62	理学療法	地域理学療法学	94	臨床心理	社会福祉学
31	臨床工学	公衆衛生学Ⅰ	63	理学療法	日常生活技術学			
32	臨床工学	公衆衛生学Ⅱ	64	理学療法	理学療法国際事情			

以下 50 科目は学生と地域関係者がともに学び合うことができるように外部へ知の提供をしています。

◆外部に開かれた科目　（50 科目）

No.	学部	科目名称
1	総合政策学部	生活と法（春）
2		生活と法(秋)
3		刑法Ⅰ（総論）
4		刑法Ⅱ（各論）
5		国際会計論
6		中東・アフリカの政治・経済
7		時事問題研究B（春）
8		時事問題研究B(秋)
9		介護政策論
10		社会福祉学
11		出店戦略
12		イノベーション論
13		租税法Ⅰ
14		租税法Ⅱ
15		家族法
16		健康社会学
17		医療経済学
18		Introduction to Global Health issues
19		環境政策論
20		国際経済学B（金融）
21		マクロ経済学
22		アメリカ政治論
23		ヨーロッパ政治論
24		財政論

No.	学部	科目名称
25	外国語学部	英語学演習Ⅰ
26		英語学演習Ⅳ
27		英語学特論Ⅱ
28		英語学特論Ⅲ
29		宿泊産業論
30		地域圏研究Ⅲ(北米)
31		異文化コミュニケーション
32		日中比較文化論Ⅰ
33		日中比較文化論Ⅱ
34		アジアの文学・文化(韓)
35		地域圏研究Ⅱ(韓国)
36		実用英語演習Ⅰ(英･1年)
37		実用英語演習Ⅱ(英･1年)
38		観光学入門
39	保健学部	生命倫理学（健福）
40		高齢保健学
41		カウンセリング
42		乳幼児・児童心理学
43		救命救助法
44		健康スポーツ科学(健福)
45		臨床心理学概論
46		老人福祉論
47		発達臨床心理学
48		食品製造学
49		食品栄養学
50		食品衛生学

3　AP プログラム（日英中トライリンガル育成のための高大接続）について

杏林大学は、平成 26 年度文部科学省「大学教育再生加速プログラム」テーマⅢ（高大接続）に採択され、最大 5 カ年の補助を受けながら事業を実施していくことになりました。この事業は「AP プログラム」と呼ばれていますが、AP は Acceleration Program（加速プログラム）の略語であると同時に、アメリカを中心に行われている高大接続の方式 Advanced Placement（アドバンストプレースメント：高校生に大学レベルの教育機会を提供し、入学後に大学の卒業に必要な単位として認定すること）の略語でもあります。

杏林大学が進めていく事業の基本構想は、「日英中トライリンガル育成のための高大接続」です。これまで築き上げてきた高大連携を基盤として、単なる教育機会の提供に留まらず、グローバル人材育成という教育目標を共有する高等学校と連携しながら、教育内容、教育方法、教育成果の発展的連携・接続を図っていきます。

外国語学部は、この事業の中心的取組学部として、高校生に教育機会を提供する様々な事業を実施していきます。高校生へのグローバル関連科目のオープン化、日英中トライリンガルキャンプ、英語キャンプ、中国語キャンプ、スピーチ・プレゼンテーションコンテスト、セミナーなど、グローバル人材になるという共通の目標を持った高校生と共に学ぶ機会が増えていきます。そうした機会で、外国語学部生の皆さんは、先輩として、あるいはピアサポーター、ピアチューターとして、高校生の皆さんに模範を示しながら、自らもグローバル人材になるべく研鑽を積んでください。

また、AP プログラムでは、ライティングセンターを設置しました。ライティングセンターでは、1 対 1 のセッションで、レポートや論文、あるいは留学準備書類作成などについて教員やピアチューターと意見交換し、文章を改善するためのアドバイスを得ることができます。グローバル人材になるべく英語のライティング力を高めたいと考えている人は、積極的に利用してください。

UNIVERSAL PASSPORT
利用の手引き

注意事項

推奨する利用環境は次の通りです

OS：Windows2000 SP4 以上/WindowsXP SP2 以上/WindowsVISTA/Windows7

MacOS X 10.4(Tiger)以上

ブラウザ：Internet Explorer6.0 SP1 以上/Internet Explorer7.0 以上/Internet Explorer8.0

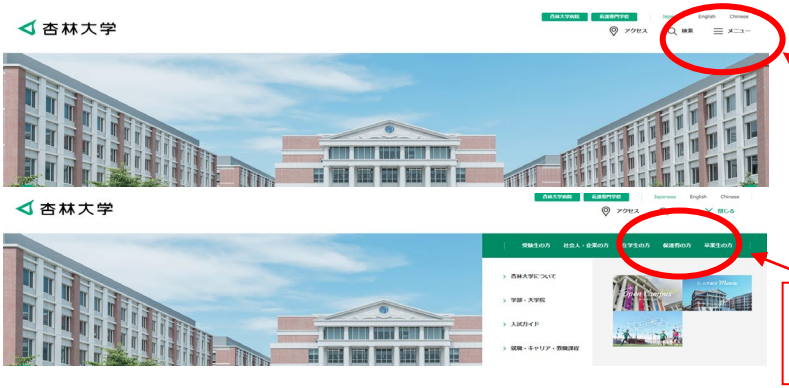
Mozilla Firefox 1.5.0.3 以上/Mozilla Firefox 3.6

使用するブラウザの[戻る][進む]ボタンは押さないでください。全て画面上のボタンで操作してください。何も操作せずに30分間経過すると自動的にログアウトとなりますので、その際は再度ログインし直してください。パスワード忘れによりログインできなくなった場合は、総合情報センターにお問い合わせください。

杏林大学　総合情報センター

■■ログイン方法■■

杏林大学のホームページにアクセスします。 URL：http://www.kyorin-u.ac.jp

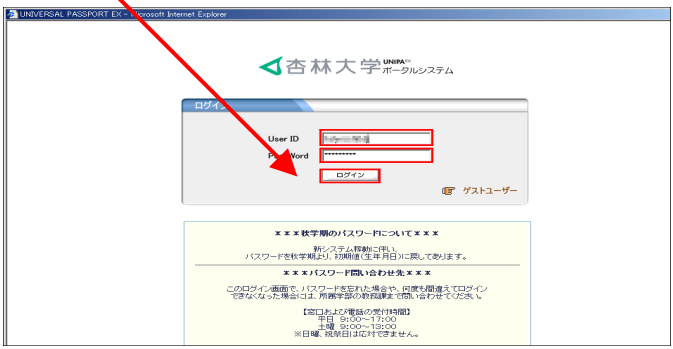


『学生支援ポータル』の画面が開きます。下記赤枠のアイコンをクリックします。

“セキュリティの警告”というメッセージが出ますので OK をクリックします。

大学より事前に通知されている、User-ID と Password を入力します。

ログイン をクリックします。



■■ポータ

注意事項

User-ID と Password は必ず半角文字を用いて入力を行ってください。

なお、誤入力等により続けてログインに失敗するとパスワードが削除され、ログインできなくなります。ご注意ください。

カレンダー

スケジュールを登録することができます。

メール設定

設定すると掲示情報をメールアドレス宛に送信できます。

画面切り替えタブ

『ポータル』と『授業』画面を切り替えます。

メニューバー

ここに表示される休講情報は履修登録中の授業のみです。

全ての休講情報を確認したい時は『全授業』を押してください。

件数をクリックするとカテゴリ内のすべての掲示情報を確認できます。

掲示情報

休講情報や各部署。センターからのお知らせを確認できます。

WEB お気に入り

お気に入りの URL を登録することができます。

授業情報

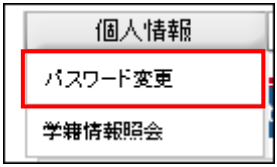
履修登録した授業と、スケジュールで登録した内容が表示されます。

授業をクリックすると授業機能画面に遷移します。

■■パスワード変更■■

掲示情報

メニューバーの中の『個人情報』にカーソルを合わせパスワード変更を選択します。

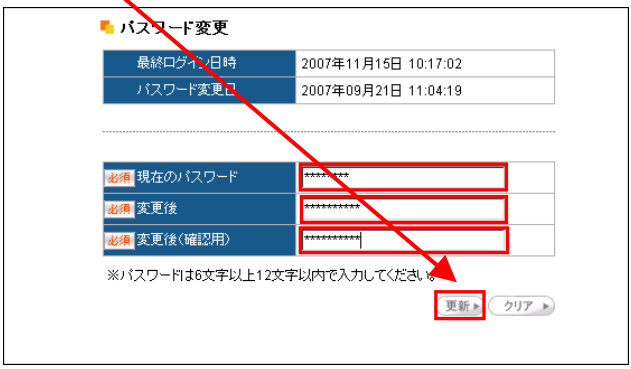


現在のパスワード　・・・ 最初に配付されたパスワードを入力

変更後　　・・・ 新しいパスワードを入力(**半角文字で 6～12 文字**)

変更後(確認用)　・・・ 新しいパスワードを再度入力

『更新』をクリックします。

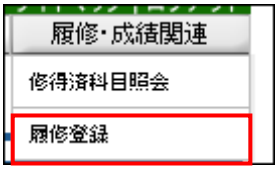


注意事項

変更後のパスワードは忘れないよう注意してください。

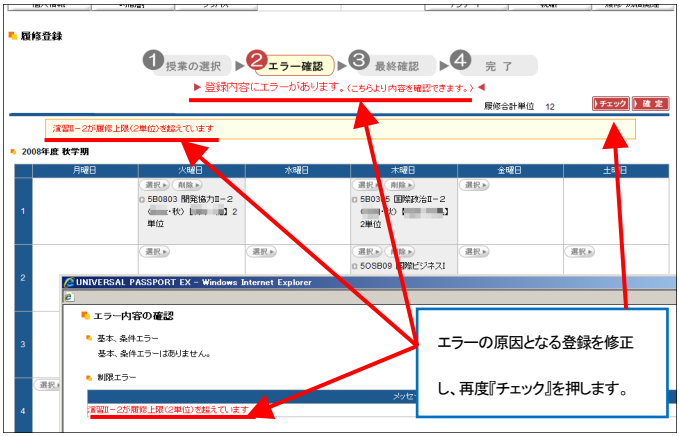
セキュリティ向上のため、パスワードはこまめに変更し、管理していただくことを推奨します。

メニューバーの中の『履修・成績関連』にカーソルを合わせ履修登録を選択します。

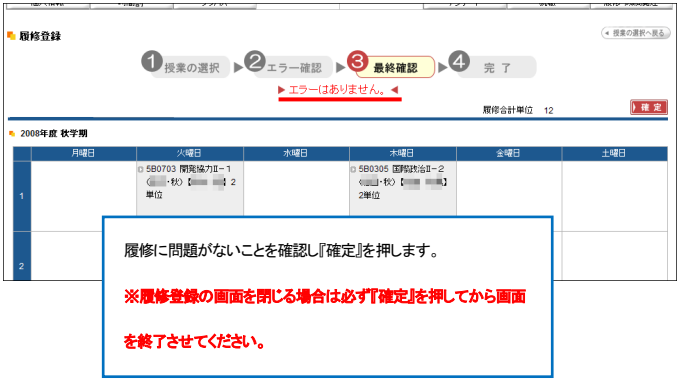


履修登録する授業を選択します。

≪エラーがある場合≫エラーメッセージが表示されます。



≪エラーがない場合≫「エラーはありません」と表示されます。



『確定』を押したら「履修登録が完了しました」と表示され、履修登録が完了となります。学生時間割表が出現しますので、印刷して保存しておくことができます。

注意事項

履修登録を行う際は所属学部の指示に従ってください。

詳しくは別途配布される各学部の履修登録マニュアルを参照してください。

■■時間割確認■■

メニューバーの中の『時間割』にカーソルを合わせると、学生時間割表、教員時間割表、授業時間割表の選択メニューが表示され選択することで確認できます。

以下の3種類の時間割を確認できます。

『学生時間割表』・・・履修登録を行った学生自身の時間割の確認。

『教員時間割表』・・・教員の担当授業時間割の確認。

『授業時間割表』・・・大学で開講される全ての授業の確認（井の頭キャンパスのみ）。

科目名をクリックするとシラバスを確認することができます。